富士塚遺跡（ふじづかいせき）

富士塚遺跡（Ⅱ）

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1996.3
長野県飯田市教育委員会

ふじづかいせき
富士塚遺跡

富士塚遺跡（Ⅱ）

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1996.3
長野県飯田市教育委員会

序

飯田市は、自然的条件に恵まれ、また、古来交通の要衝に位置しており、埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を遺しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきたさまざまな証しであり、できるかぎり現状の姿のままで後世に残し伝えることが私たちの責務でありましょう。けれども、同時に、私たちはより良い社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活のさまざまな場面で、文化財の保護と開発という相い容れぬ事態に直面することが多くなっています。こうした場合、発掘調査をして記録としてとどめることも止むを得ないものといえましょう。

平成３年度から、飯田市では伊賀良大瀬木地籍で土地改良総合整備事業を実施することになりました。圃場整備を行ない、農業生産の高度化・機械化を図り、これによって生産性の向上を目指すもので、昨今の農業を取り巻く情勢を考慮するとき、地区の農業振興のため是非とも必要な事業といえましょう。けれども、事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡・富の平遺跡がかかり、圃場整備事業によって壊されてしまうことになりました。そこで、次善の策ではありますが、事業実施に先立って緊急発掘調査を実施して、記録保存を図ることになりました。

調査結果は本書のとおりでありまして、調査で得られましたさまざまな知見はこれからの地域史研究の上で貴重なものばかりであると確信いたします。特に、縄文時代中期のおびただしい遺構・遺物が調査されました増泉寺付近遺跡では、ほぼ一つのムラを掘り上げたわけで、ムラの姿がどう変わっていったか、明らかになったそうですし、また、各遺跡で貴重な資料が提供され、他地域との交流の様子が窺えると聞き及んでいます。

最後になりましたが、現地および遺構・遺物についてご指導をいただきました諸機関・個人各位、調査にあたり多大なご理解とご協力をいただいた地権者ならびに隣接地の方々、現地作業および整理作業に従事された作業員の方々ほか関係各位に、深甚なる謝意を申し述べつつ刊行の辞とする次第であります。

平成８年３月

飯田市教育委員会

教育長　小　林　恭之助

例　言

1．　本書は土地改良総合整備事業（大瀬木東地区）に伴い実施された、飯田市伊賀良所在の埋蔵文化財包蔵地富士塚遺跡の緊急発掘調査報告書である。

2．調査は、飯田市農林部からの委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。なお、事業のうち農家負担分については、重要遺跡の記録保存を図るため、市内遺跡緊急調査事業として国・県の補助を受けて飯田市教育委員会が直営実施した。

3．調査は、平成４年度に飯田市大瀬木3571番地他の現地調査を、５年度同地区の整理作業および飯田市大瀬木3424番地他の現地調査を、６・７年度整理作業および報告書作成作業を行なった。

4．現地での調査実施にあたり、調査区設定・航空測量・航空写真撮影を株式会社ジャステックに委託実施した。

5．発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてＦＪＴを一貫して用いた。なお、調査が２年次にわたるため、平成４年度調査分を富士塚遺跡、５年度調査分を富士塚遺跡（Ⅱ）の２地区に分け、それぞれの中心地番を略号に続けて付しＦＪＴ3571、ＦＪＴ3424とした。

6．本報告書の記載順は遺構の種別を優先した。遺構図は本文と併せ挿図とし、遺物および写真図版は本文末に一括した。

7．本書は馬場保之が執筆し、本文の一部について小林正春が加筆・訂正を行なった。

8．本書に掲載された図面類の整理は馬場が、遺物実測の一部を吉川金利・福沢好晃・下平博行・馬場および整理作業員があたった。また、遺物実測の一部および写真撮影は株式会社ジャステックに委託実施した。なお、作業実施について、佐々木嘉和・山下誠一・佐合英治・吉川豊・吉川（金）・渋谷恵美子・福沢・伊藤尚志・下平が補佐した。

9．本書の編集は、飯田市教育委員会の責任のもとに、馬場が行なった。

10．本書に掲載した遺構図の中に記した数字は、検出面からそれぞれの穴の深さ（単位cm）を表している。

11．本書に掲載した石器実測図の表現は『恒川遺跡群』（飯田市教育委員会　1986）に準拠し、それ以外の表現として、節理面を斜線で表現した。

12．本書に関連する出土遺物および記録された図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

本 文 目 次

序
例　　言
目　　次
Ⅰ．経　過 …… 1
　1．調査に至るまでの経過 …… 1
　2．調査の経過 …… 1
　3．調査組織 …… 4
Ⅱ．遺跡の環境 …… 6
　1．自然環境 …… 6
　2．歴史環境 …… 6
Ⅲ．調査結果 …… 12
　1．試掘調査 …… 12
　　(1) 富士塚遺跡 …… 12
　　(2) 富士塚遺跡 …… 12
　　(3) 富士塚遺跡（Ⅱ）…… 13
　2．富士塚遺跡 …… 13
　　(1) 調査位置・調査区の設定 …… 13
　　(2) 遺構と遺物 …… 14
　3．富士塚遺跡（Ⅱ）…… 14
　　(1) 調査位置・調査区の設定 …… 14
　　(2) 遺構と遺物 …… 14
Ⅳ．まとめ …… 38
　引用参考文献 …… 39
　抄録 …… 56

付 図 目 次

付図1　　ＦＪＴ3571　遺構全体図

挿　図　目　次

挿図1　調査遺跡および周辺遺跡位置図 …… 7
挿図2　事業実施予定範囲 …… 10
挿図3　試掘・本調査位置 …… 11
挿図4　基準メッシュ図区画調査位置 …… 15
挿図5　ＦＪＴ3571　集石１～３　柱列址１～３ …… 16
挿図6　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（1） …… 17
挿図7　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（2） …… 18
挿図8　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（3） …… 19
挿図9　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（4） …… 20
挿図10　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（5） …… 21
挿図11　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（6） …… 22
挿図12　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（7） …… 23
挿図13　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（8） …… 24
挿図14　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（9） …… 25
挿図15　ＦＪＴ3424　遺構全体図 …… 27・28
挿図16　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（1） …… 29
挿図17　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（2） …… 30
挿図18　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（3） …… 31
挿図19　ＦＪＴ3571・3424　土坑エレベーション図（1） …… 32
挿図20　ＦＪＴ3571・3424　土坑エレベーション図（2） …… 33

図　版　目　次

第1図　ＦＪＴ3571　土坑1　小柱穴　遺構外出土遺物
ＦＪＴ3424　遺構外出土遺物 …… 42

表　目　次

表1　遺構観察表（1） …… 26

表2　遺構観察表（2）…… 34
表3　遺構観察表（3）…… 35
表4　遺構観察表（4）…… 36
表5　遺構観察表（5）…… 37

写真図版目次

図版1　富士塚遺跡全景 …… 44
図版2　遺構分布状況 …… 45
図版3　遺構分布状況　集石1 …… 46
図版4　集石2・3　試掘調査風景 …… 47
図版5　重機作業風景　発掘作業風景 …… 48
図版6　発掘作業風景 …… 49
図版7　委託測量調査 …… 50
図版8　富士塚遺跡（Ⅱ）全景 …… 51
図版9　遺構分布状況 …… 52
図版10　試掘調査風景　重機作業風景 …… 53
図版11　重機作業風景 …… 54
図版12　発掘作業風景 …… 55

Ⅰ．経　　過

1．調査に至るまでの経過

飯田市長　田中秀典より飯田市伊賀良大瀬木地区における農村基盤総合整備事業の計画が提示され、平成２年８月23日、事業にかかる埋蔵文化財包蔵地について、事業主体である飯田市農林部・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が保護協議を実施した。

平成３年度になって事業計画が具体化されたのを受けて、事業地内の平成３年度施工予定地に三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡の３遺跡がかかるため、平成３年５月29日と９月９日の両度保護協議を実施し、とりあえず各遺跡について試掘調査を実施し、その結果に基づいて改めて協議することとなった。

2．調査の経過

（1）平成３年度

平成３年度の事業実施予定地については、９月21日、試掘調査に着手した。まず、三尋石遺跡について重機により５本の試掘トレンチを掘削し、引き続き、増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡についてそれぞれ３本・４本の試掘トレンチをあけた。調査の結果、三尋石遺跡の一画で縄文時代中期から後期にかけての多数の遺物が出土し、該期の土坑等が確認された。また、増泉寺付近遺跡では全面に縄文時代中期の遺構・遺物分布が認められた。富士塚遺跡については縄文時代中期の遺物が少量出土したが、広範囲に重機による造成が及んでおり、遺構・遺物の遺存状態は不良であった。

そこで、平成３年10月２日、飯田市農林部・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が改めて現地で保護協議を実施した。その結果、三尋石遺跡の一部と増泉寺付近遺跡については事業実施に先立ち次善の策として記録保存を図ることとなり、飯田市教育委員会に発掘調査を委託することとなった。

なお、農村基盤総合整備事業は国・県の補助を受けて実施されるものであり、発掘調査費用のうち農家負担分については文化財を保護する立場の教育委員会が対応すべきとして、国・県の補助を受けて飯田市教育委員会が実施する直営事業市内遺跡緊急調査で行なうこととなった。

諸協議に基づいて、10月21日本調査に着手した。まず、三尋石遺跡に、続いて増泉寺付近遺跡に重機を入れて表土剥ぎを行なった。10月23日、三尋石遺跡で、翌24日から増泉寺付近遺跡で作業員による作業を開始した。重機による荒れ土を除去し、竪穴住居址続いてその他の遺構を検出

し、掘り下げて精査した。それらについて写真撮影・測量調査を実施し、12月17日一旦増泉寺付近遺跡の現地調査を中止した。12月20日、中断していた三尋石遺跡の調査を再開した。各グリッド毎遺物包含層を掘り下げ、続いて、竪穴住居址・土坑等を検出、掘り下げ作業を行なった。写真撮影・測量調査の後、平成4年1月16日三尋石遺跡の現地作業を終了した。

中断していた増泉寺付近遺跡の調査は4年2月8日から重機による排土の移動を待って、未調査部分の調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行なった後、2月13日から作業員による精査を行なった。検出された遺構等について写真撮影・測量調査を実施し、2月25日いっさいの現地調査を終了した。

引き続き、飯田市考古資料館において、図面および撮影写真等についての基本的な整理作業を行なった。

(2) 平成4年度

平成4年度事業実施予定地は、三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡の2遺跡がかかることとなった。そこで、三尋石遺跡（Ⅱ）に4月13日、重機を入れて試掘調査に着手し、4月15日、作業員により遺構の確認作業を行なった。その結果、縄文時代中期の竪穴住居址が確認され、本発掘調査の実施が必要と判断された。また、富士塚遺跡については、5月26日重機を入れて試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期の土坑と遺物、それに多数の小柱穴等が確認され、本調査実施が必要となった。さらに、12月になって事業予定地の変更が行なわれ、富の平遺跡の一画がかかることになり、急速試掘調査を実施した。その結果、縄文時代前期後半～中期・弥生時代後期・中世の各時期の、竪穴住居址・建物址・土坑・溝址等が確認された。

諸協議に基づいて、10月8日、富士塚遺跡の本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、10月9日、作業員を入れて作業を開始した。重機の荒れ土を除去し、土坑・集石・小柱穴その他の遺構を検出し、順次掘り下げて精査した。そして、全体および個別の写真撮影、集石の断ち割り調査等を行ない、10月27日、現地での作業を終了した。また、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託実施した。

また、三尋石遺跡（Ⅱ）については、11月6日、本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、11月11日、作業員を入れて作業を開始した。重機荒れ土を除去し、竪穴住居址続いてその他の遺構を検出し、掘り下げて精査した。全体および各遺構個別の写真撮影を行ない、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託した。最後に炉址等の断ち割り調査や補充の測量調査をして、12月16日現地での作業を終了した。

平成5年1月25日、富の平遺跡の本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、2月1日、作業員を入れた。重機荒れ土の除去に続き、遺構検出を行ない、竪穴住居址その他の検出遺構について掘り下げて精査した。それぞれについて写真撮影等を行ない、航空写真撮影・航空測量調査を（株）ジャステックに委託した。最後に炉址等の断ち割り調査および測量の補充調査を

して、3月25日現地での作業を終了した。

なお、平成5年度事業予定地として、富士塚遺跡（Ⅱ）・富の平遺跡が該当することから、平成5年3月10日から18日にかけて両遺跡の試掘調査を実施し、それぞれについて本調査が必要であると判断された。

飯田市考古資料館においては、平成3年度調査を実施した三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡についての、出土遺物・図面類の整理作業を実施した。作業内容は、出土遺物の水洗・注記および接合・復元作業の一部を行なった。図面類については、遺構全体図作成・第二原図作成・トレース等の作業を行なった。また、本年度調査を実施した三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡については、現地で記録された図面・写真等について基本的な整理作業を行なった。

(3) 平成5年度

富の平遺跡は、平成4年度中に実施した試掘調査の結果を受けて、重機で表土剥ぎ作業を行ない、平成5年5月6日より作業員を入れて本発掘調査を開始した。まず、重機による荒れ土を除去した後、ジョレンで遺構を検出した。竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑等が確認され、これらについて順次掘り下げて精査を行なうとともに、全体および個別の写真撮影、炉址の断ち割り調査等を実施し、6月8日までに現地での作業を終了した。その間、5月31日と6月8日に（株）ジャステックによる委託航空測量・航空写真撮影を、また、6月8日には古環境復元のための自然科学的な分析調査を（株）パリノ＝サーヴェイに委託実施するため、試料のサンプリングを行なった。

富士塚遺跡（Ⅱ）は、8月17日より8月26日まで重機で表土剥ぎ作業を行ない、8月30日、現地での発掘調査を開始した。検出された遺構は中世以降の小土坑で、出土遺物は陶器片が僅かである。調査区南側は湿地帯、西側は切り土されており、全体的に耕作による攪乱が多い。これらを確認した後、（株）ジャステックにより委託航空測量・航空写真撮影を行ない、9月2日に現地での作業を終了した。

飯田市考古資料館においては、昨年に引き続き、三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・三尋石遺跡（Ⅱ）・富士塚遺跡についての、出土遺物・図面類の整理作業を実施した。作業内容は、出土遺物の水洗・注記および接合・復元・実測作業の一部を行なった。図面類については、遺構全体図作成・第二原図作成・トレース等の作業を行なった。また、本年度調査を実施した富士塚遺跡（Ⅱ）・富の平遺跡については、現地で記録された図面・写真等について基本的な整理作業を行なった。

(4) 平成6年度

平成6年度は、3～5年度の発掘調査分について、5年度に引き続いて飯田市考古資料館および飯田市考古博物館において整理作業を実施した。富士塚遺跡・富の平遺跡については、遺物の水洗・注記・接合・復元作業および遺物実測の一部等を行なった。三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・

三尋石遺跡（Ⅱ）については遺物実測作業、土器の拓本・断面実測等の作業を中心に実施した。また、各遺跡について、遺構図の第二原図作成・トレース・貼り込み、遺物実測図・土器断面図のトレース等の整理作業を実施した。

(5) 平成7年度

6年度に引き続き、飯田市考古資料館において、残りの遺物実測・トレース作業、土器の拓本・断面実測、遺構図のトレース・貼り込み・版組、遺物写真撮影、原稿執筆、編集等の作業を実施し、本発掘調査報告書の作成を行なった。

3．調査組織

調査主体者　飯田市教育委員会　教育長　福島　稔　（～平成３年12月）
小林恭之助　（平成３年12月～）

調査担当者　小林正春・馬場保之

調　査　員　佐々木嘉和・山下誠一・佐合英治・吉川　豊・渋谷恵美子・吉川金利・下平博行
伊藤尚志・福澤好晃

作　業　員　新井幸子・新井幸子・新井ゆり子・池田幸子・市瀬長年・伊坪　節・伊藤さだみ
伊藤せつ子・伊藤博紀・井上恵資・今村春一・今村治子・居山ミキ子・太田沢男
大野　深・大原久和・岡島定治・岡島　亘・岡田直人・岡田紀子・奥村栄子
小沢信治・小沢はな・加藤時友・加藤　富・金井照子・金井三佳子・金子正子
金子裕子・唐沢古千代・唐沢さかえ・唐沢やち子・川上一子・川上みはる
川上　玲・北川　彰・北沢直子・北原久美子・北原森作・北村重実・木下喜代恵
木下賢一・木下貞子・木下早苗・木下　傳・木下経子・木下当一・木下義男
木下良子・木下義郎・木下玲子・桐生八千代・櫛原亜紀子・櫛原勝子
久保田まさえ・久保田美津子・久保田やよい・熊谷義章・小池金太郎
小池千津子・小池侑子・香山貴章・小島孝修・小平不二子・小平峯子・小平隆二
小西広司・小林千枝・小林世志・斉藤千里・斉藤徳子・坂井勇雄・榊原政夫
坂下やすゑ・佐々木文茂・佐々木真奈美・佐々木美千枝・佐々木光江
佐藤喜代一・佐藤知代子・塩沢澄子・塩沢　節・清水三郎・清水恒子・下井正俊
下井田衛・代田和登・菅沼庄三・菅沼和加子・鋤柄廣一・鈴木尊子・関口みさ子
関島真由美・瀬古郁保・高橋収二郎・滝上信江・滝上正一・田口久美子
竹本常子・田中　薫・田中恵子・田中百子・塚原次郎・遠山駒吉・中島佳寿子
中島　正・中島真弓・中平隆雄・仲田昭平・鳴海紀彦・西尾茂人・西尾俊貴

西山あい子・丹羽啓子・丹羽由美・萩原弘枝・畠山英夫・服部光男・馬場和子
林　朝子・林勢紀子・林　年雄・原　克美・原　祐三・原田四郎八・肥後みち
樋本宣子・平栗陽子・広井　保・福沢育子・福沢　勲・福沢五男・福沢幸子
福沢トシ子・福沢昌子・古井純男・古根素子・古林登志子・細田七郎・牧内郁代
牧内　修・牧内喜久子・牧内とし子・牧内八代・正木実重子・増田香代子
松沢美和子・松沢　豊・松下成司・松下直市・松下真幸・松下光利・松島　保
松島直美・松島なみ・松村かつみ・松本恭子・松本幸子・三浦厚子・水落佳代子
溝上清見・三石久雄・南井規子・宮内真理子・宮下恵美子・宮下貞一・森　章
森津多恵・森　信子・森藤美知子・矢澤博志・柳沢謙二・山田康夫・吉川悦子
吉川和夫・吉川紀美子・吉川小夜子・吉川正実・吉沢佐紀子・吉沢二郎
吉沢まつ美・芳山　幹・依田時子・渡部　誠

指　　導　　長野県教育委員会

事　務　局

飯田市教育委員会社会教育課

安野　節　（社会教育課長、～平成５年度）
横田　穆　（　〃　長、平成６年度～）
中井洋一　（　〃　文化係長、～平成３年度）
原田吉樹　（　〃　〃　長、平成４・５年度）
小林正春　（　〃　〃　、～平成５年度）
　　（　〃　〃　長、平成６年度～）
吉川　豊　（　〃　〃　）
山下誠一　（　〃　〃　、平成６年度～）
馬場保之　（　〃　〃　）
渋谷恵美子（　〃　〃　、～平成５年度）
吉川金利　（　〃　〃　、平成５年度～）
下平博行　（　〃　〃　、平成５年度～）
伊藤尚志　（　〃　〃　、平成６年度～）
福澤好晃　（　〃　〃　、平成４年度～）
岡田茂子　（　〃　社会教育係、平成５年度～）
篠田　恵　（　〃　〃　、～平成４年度）

Ⅱ. 遺 跡 の 環 境

1．自然環境

伊賀良地区は飯田市西部にあり、飯田市街地の南西に位置する。北側は鼎地区、東側は松尾・竜丘地区、南側は山本・三穂地区に接する。

飯田市は南アルプスと中央アルプスにはさまれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川に平行する河岸段丘地形を特徴とするが、両山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴ない盆地・大きな段丘崖が形成された結果であり、複雑な段丘地形を呈している。伊賀良地区の場合、西側と東側で大きく地形が変化している。西半は中央アルプスの前山である笠松山（1271m）・高鳥屋山（1397m）東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山から流れ出す入野沢川・南沢川・滝沢川・新川等の河川によって形成された広大な扇状地が広がる。扇端はおおむね北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村の長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるが、この扇状地が小河川により幾重にも複合して形成されているため、比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅がみられる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は現在は堆積作用より下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、開析谷の規模は比較的小さい。これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面を占めており、扇端から離れるほど地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への井水の開削が繰り返し行なわれ、大井をはじめ多くの井水が開けられているほか、地区内の大小河川には人為的な改変が加えられてきた。

富士塚遺跡は、笠松山系の支脈から連続する微高地の北東緩斜面上に位置し、遺跡の北側は臼井川の上流部にあたり、川幅も狭く、谷もそう深くない。また、調査地点の南側500mを茂都計川が東南東に流れており、深く開析している。本遺跡は、比較的陽当たりの良い緩斜面に位置し、集落を営むのに適した所といえる。

2．歴史環境　（挿図1）

伊賀良地区は埋蔵文化財包蔵地が濃密に分布しており、これまで発掘調査がなされた遺跡は、学術調査による立野・山口・西の原各遺跡、中央自動車道建設にかかる与志原・上の平東部・寺山・六反田・大東・酒屋前・滝沢井尻・小垣外（辻垣外）・三壺渕・上の金谷各遺跡、一般国道153号飯田バイパス建設にかかる殿原・八幡面・小垣外各遺跡、広域農道西部山麓線建設にかか

A．三尊石遺跡　B．増泉付近遺跡　C．富士塚遺跡　D．富の平遺跡
1．立野遺跡　2．山口遺跡　3．与志原遺跡　4．上の平東部遺跡
5．寺山遺跡　6．六反田遺跡　7．大東遺跡　8．酒屋前遺跡
9．滝沢井尻遺跡　10．小垣外（辻垣外）遺跡　11．三嶽瀬遺跡　12．飯田垣外遺跡
13．火振原遺跡　14．梅ケ久保遺跡　15．細田北遺跡　16．河原林遺跡
17．直刀原遺跡　18．大原遺跡　19．鳥屋平遺跡　20．中村中平遺跡

挿図1　調査遺跡および周辺遺跡位置図

る飯田垣外・火振原・梅ケ久保・細田北・大原・直刀原各遺跡、諸開発に伴う中島平・宮ノ先・酒屋前・鳥屋平・下原・高野・公文所前・中村中平等の各遺跡がある。こうした文化財に表われた先人達の足跡は縄文時代早期までさかのぼる。立野遺跡や山口遺跡といった縄文時代早・前期の遺跡は主に笠松山麓の比較的標高の高い所に立地している。前期終末では辻垣外・殿原遺跡等扇状地の扇端付近の遺跡で竪穴住居址が調査されている。中期の遺跡は伊賀良地区の広範に分布しており、中央自動車道・西部山麓線路線にかかる扇状地上の諸遺跡や下原・公文所前といった段丘上の遺跡がある。殊に下原遺跡では該期の中心的役割を果たしたと考えられる大集落の一画が調査されている。後期中葉から晩期にかけては、茂都計川に面した中村中平遺跡で、配石址・竪穴住居址・配石墓等の遺構や土偶・土製耳飾り・石棒・石剣を含むの多量の遺物が調査され、不明な点の多かった該期の様子が解明されると期待されている。また、酒屋前・辻垣外・殿原遺跡で断片的な資料ではあるが、遺構・遺物が確認されている。

弥生時代においても集落立地は基本的に前時代と変わらないと考えられるが、前期・中期についてはなお不明である。後期になると、遺跡数が増加するとともに調査例も増す。これまで調査された遺跡としては大東・上の金谷・酒屋前・滝沢井尻・宮ノ先・中島平・中村中平遺跡等がある。該期の集落展開としては、扇状地末端の湧水線および西方前山から東流する大小河川を利用した水田経営と高位段丘上での陸耕を基盤とするものが考えられる。殿原遺跡ではこれまで90軒にのぼる竪穴住居址が調査される等、大規模な集落が営まれていたことが判明している。また、細田北遺跡では標高700mを超える高所から2軒の竪穴住居址が発見されており、人口の爆発的な増加とこうした高所にまで生産基盤を拡大するまでに至る生産力の向上を看取できる。

古墳は伊賀良地区では52基が確認されているが、現存するものは9基にすぎない。隣接する竜丘・松尾地区に比べ数も少なく、いずれも規模の小さい円墳である。また、同時代の集落址の調査例は少なく、前期後半の上の金谷遺跡、後期の三壺渕・中島平遺跡、後期の中村中平遺跡が調査されているのみである。遺跡数も前時代に比べると著しく減少しており、湧水・湿地を控えた集落の展開が考えられる。中村中平遺跡では、遺跡北側の台地の縁に大名塚古墳が現存し、他に消滅したものとして中村狐塚古墳・寺畑古墳・宮原2号古墳があり、これらの築造を担った集落であろう。また、地区内北方地籍には条里が敷かれたとも指摘されており、水田経営の定着した姿を想定することができよう。

奈良時代については、具体的な遺構・遺物の調査例は中村中平遺跡のみであり、掘立柱建物址が単独で調査されたのみで、詳細は不明である。地区内には、古代東山道の経路および「育良駅」の推定地や、荘園を構成する村落の起源等に関連すると思われる箇所があり、重要な役割を果たした地区ということができる。

平安時代については、その末期には伊賀良庄の名が文書に登場する。そのなかには中村・久米・川路・殿岡が含まれることが文献等により明らかにされており、当地区がその中心的な位置を占めたことが考えられる。当地区における大規模な井水開発の歴史は、この時代にはじまるともい

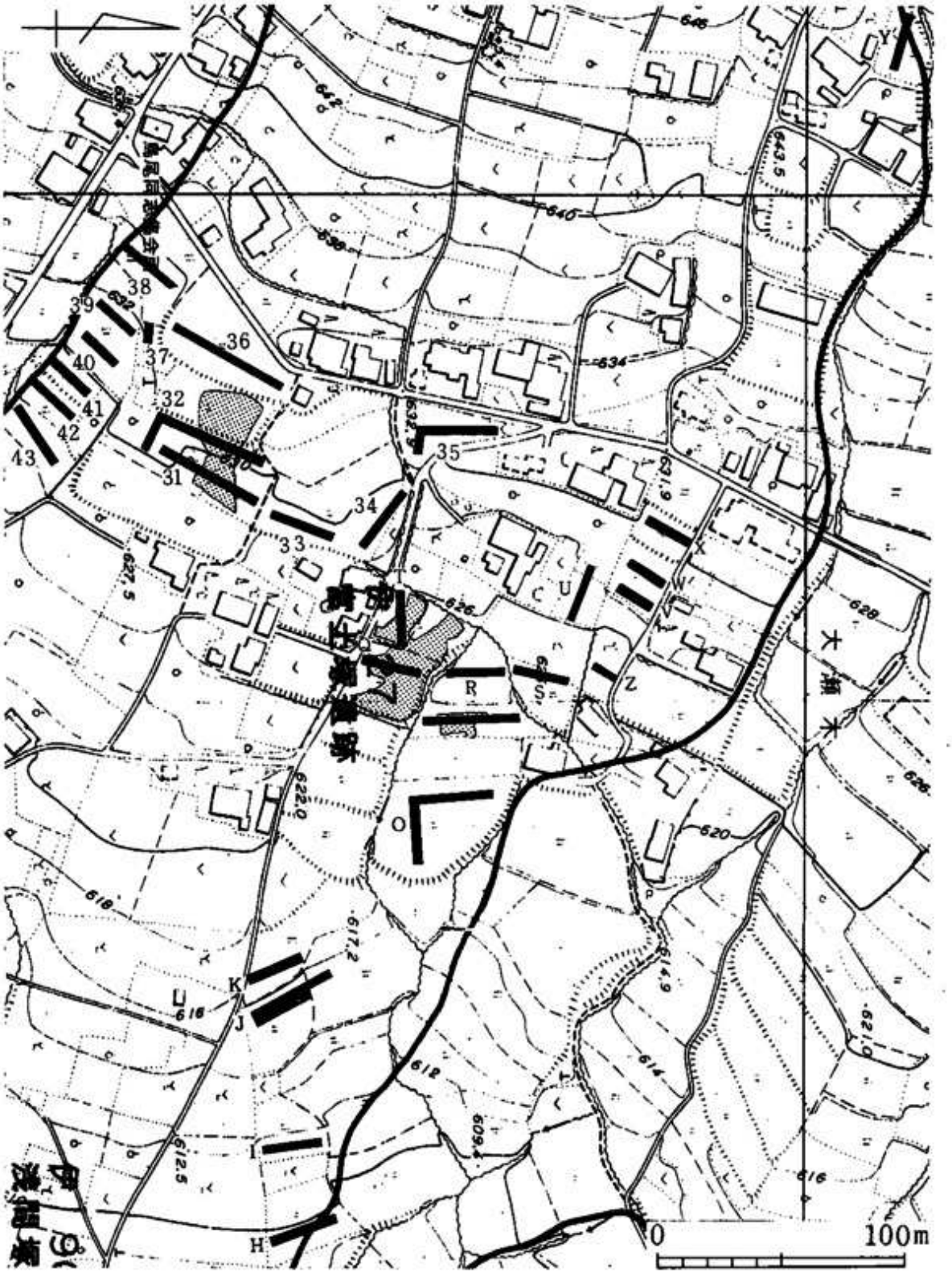
われている。殿原遺跡の調査結果はこうした説をある程度裏付けるものといえる。一方、これまで実施された発掘調査の結果、六反田・滝沢井尻・小垣外・三壺渕・上の金谷・宮ノ先・公文所前遺跡等地区内のほぼ全域にわたり、集落址の一部が調査されている。伊賀良庄の成立がどこまで遡るかは不明であるが、この時代の集落が前時代よりも増加することは、この地区の開発が一段と進んだ証左であろう。隣接する山本久米地区には真言宗の古刹光明寺がある。胎内に「保延六年」（1140年）の銘を持つ薬師如来坐像があることから、寺の創建はこれより遡ると考えられ、伊那谷の中ではいちはやく中央の文化を取り入れた先進地域の一つであったと思われる。さらに、この時代には三日市場地籍に須恵器を生産した土器（かわらけ）洞窯跡があり、ここで生産された須恵器が下伊那全域に分布するなど、手工業生産の発達がみられる。

中世においては鎌倉時代には北条時政が伊賀良庄地頭であり、以後一族の江馬氏がこれを継いだ。その地頭代が地区内に居を構えたことは疑いなく、鎌倉末期には荘園を自領化していたことが三浦和田文書に窺える。この時代の文化財としては、藤原様式の流れを汲む鎌倉初期の光明寺の阿弥陀如来坐像（国指定重要文化財）がある。

北条氏の滅亡後、信濃守護職小笠原氏は伊賀良庄を与えられ、その下で伊賀良地区の開発は急速に進んだとされる。地区内の井水の大半はこの時代の開発と考えられ、小笠原氏の勢力伸長の基盤として当地区が大きな役割を果たしたといえる。室町時代中期以降、小笠原氏内訌に伴い松尾城・鈴岡城の支城が各地に築かれ、地区内には下の城跡・桜山城跡がある。

以上、各時代について概観したが、当地区は古来重要な役割を果たしてきた地域のひとつといえよう。

挿図２　事業実施予定範囲



挿図3　試掘・本調査位置

Ⅲ. 調 査 結 果

1．試掘結果　（挿図３）

(1) 富士塚遺跡（飯田市大瀬木3597番地他）

1)　Ｈ～Ｋトレンチ

南半は田面の造成に際して、大きく削平を受けており、遺構等は確認できない。北半は低くなり、盛り土される。落ち際を中心にわずかに小柱穴があるが、傾斜のきつい北側には確認されない。縄文時代中期の土器小片がわずかに出土している。

遺構・遺物の遺存状態は不良であり、本発掘調査は不要であると判断された。

(2) 富士塚遺跡（飯田市大瀬木3571番地他）

1)　Ｏトレンチ

Ｈ～Ｋトレンチと同じく、田面の造成に際して大きく切り盛りされており、遺構は柱穴が２～３基確認されたのみである。

2)　Ｐトレンチ南半およびＱ・Ｔトレンチ

開田に際して、傾斜の上方側は削平され、下方に盛り土される。傾斜はＨ～Ｋトレンチに比して緩やかである。田の区画のうち、傾斜の下方部分を中心に、集石・土坑・小柱穴等多数の遺構が確認された。また、縄文時代後期等の遺物出土がある。

3)　Ｐトレンチ北半およびＲ・Ｓ・Ｕ～Ｘ・Ｚトレンチ

いずれも、耕土直下に造成土があり、下位に旧耕土が分布する。旧耕土は10～20cmと薄く、以下砂層ないし砂礫層となる。遺構・遺物は確認されない。

4)　Ｙトレンチ

富士塚遺跡の外縁部に位置する。耕土下に厚さ30～40cmの旧耕土が分布する。下位は30～40cm大の礫を含む黄土混褐色土となる。小柱穴３基があるのみである。

そこで、Ｐトレンチ南半およびＱ・Ｔトレンチを中心に、削平を受けた部分以外の本発掘調査実施が必要であると判断された。

(3) 富士塚遺跡（Ⅱ）（飯田市大瀬木3424番地他）

中央部分はローム層が確認され、田面の造成に際し、かなり削平・土盛りされた箇所がある。その北東側は近世と考えられる洪水起源の砂層が厚く被る。北側部分は、平成4年度調査地点と同様、礫層が分布している。一方、南側部分は全体的に低湿で、黒色粘質土が堆積している。

1) 31～33・36・37トレンチおよび34トレンチ東半

事業予定地の中央部に相当し、31トレンチ等は比較的造成を受けている。竪穴住居址・溝址・土坑・小柱穴等と考えられる遺構が、やや疎らではあるが全面に分布しているが、出土遺物は少ない。

32トレンチ中央で確認された竪穴住居址は、出土遺物が小破片で詳細時期不明であるが、縄文時代中期の住居址と考えられる。各トレンチで確認された埋土黒褐色土の多数の土坑についても詳細は不明であるが、隣接の既調査地点の成果から、大半が中期ないし後期に比定されよう。

33トレンチ中央南側には焼土が2か所検出され、周辺に硬い面がある。検出状況から中世の生活面と考えられる。

33トレンチ中央に検出された溝址の埋土は、33トレンチ北側から34トレンチ東半で確認された洪水層に近似し、陶器碗底部片および漆椀の被膜が出土した。近世の遺構であろう。

2) 34トレンチ西半および35トレンチ

ほぼ全体に礫層が厚く被り、小柱穴1個が確認されたのみで、他に検出遺構・出土遺物はない。

3) 38～43トレンチ

38～41トレンチは南側の低湿地部分に相当するが、各トレンチの北端ではロームがわずかに確認されている。42トレンチ北半および43トレンチではローム層が大きく削平されており、遺構は43トレンチに柱穴が検出されたのみである。出土遺物は流れ込みと考えられる陶器片1片がある。

遺構・遺物が確認された31・32・36・37トレンチでは、一部削平されているものの、深さ30cm程のところに遺構の検出面がある。事業実施により破壊は免れ得ず、事前に発掘調査を実施して記録保存を図ることが必要と判断された。

2．富士塚遺跡（飯田市大瀬木3571番地他）

(1) 調査位置・調査区の設定（挿図3・4）

試掘結果に基づいて、田面の造成に際して削平を受けていない部分について、調査区を設定した。

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて株式会社ジャステックに委託実施した（基準メッシュ図の区画方法については、飯田市教育委員会　1996　『三尋石遺跡　三尋石遺跡（Ⅱ）』参照）。

調査地点は、ＬＣ－83　19－38、同19－39内に位置する。

（2）遺構と遺物

検出された遺構は、集石３基・柱列址３基・土坑124基および小柱穴群がある。遺物は、土坑１から縄文時代後期前葉の深鉢片が出土した他、土坑・柱穴等からの陶磁器片の出土が多い。

３．富士塚遺跡（Ⅱ）（飯田市大瀬木3424番地他）

（1）調査位置・調査区の設定（挿図３・４）

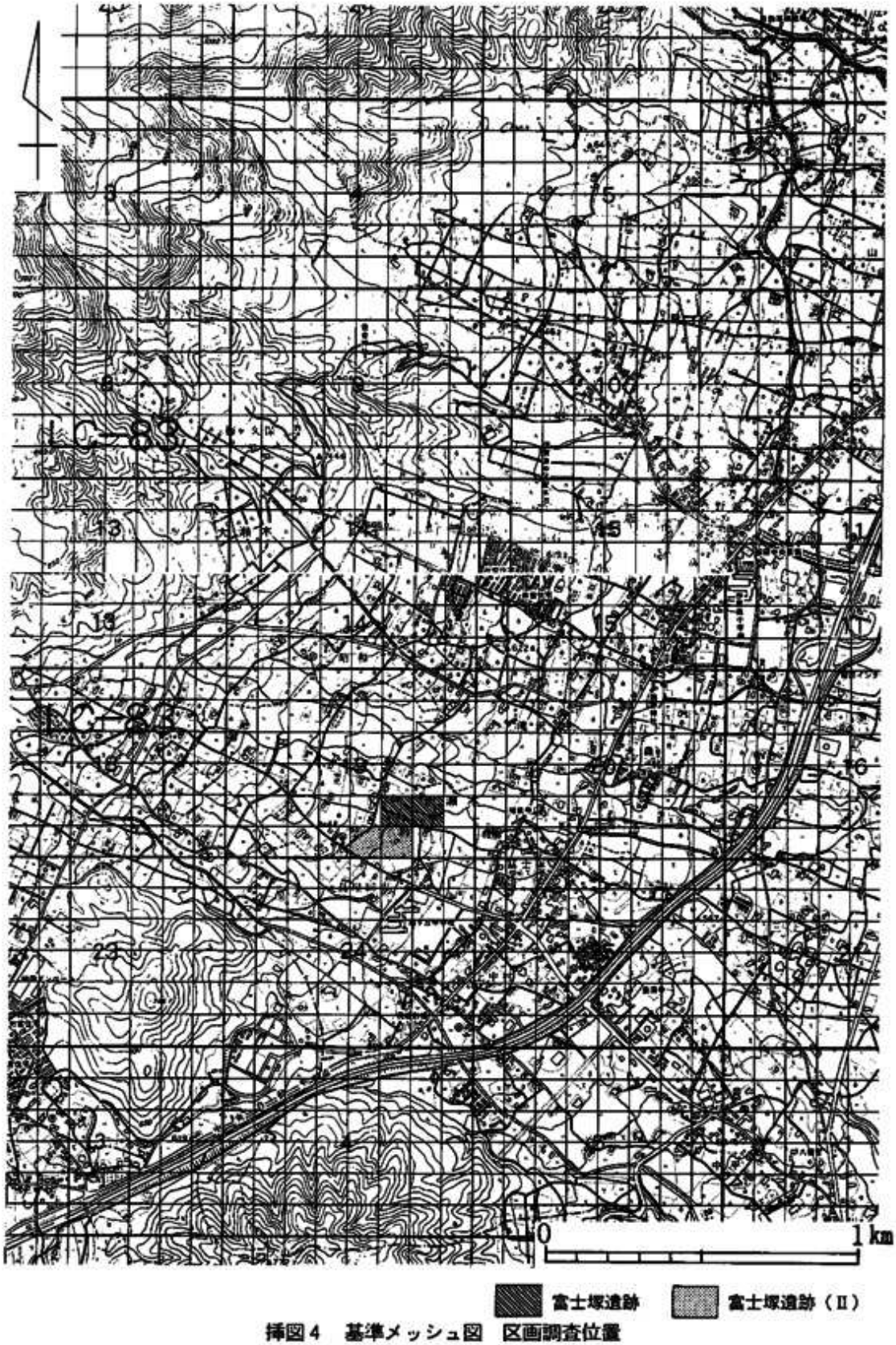
試掘結果に基づいて、調査区を設定した。

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて株式会社ジャステックに委託実施した（基準メッシュ図の区画方法については、飯田市教育委員会　1996　『三尋石遺跡　三尋石遺跡（Ⅱ）』参照）。

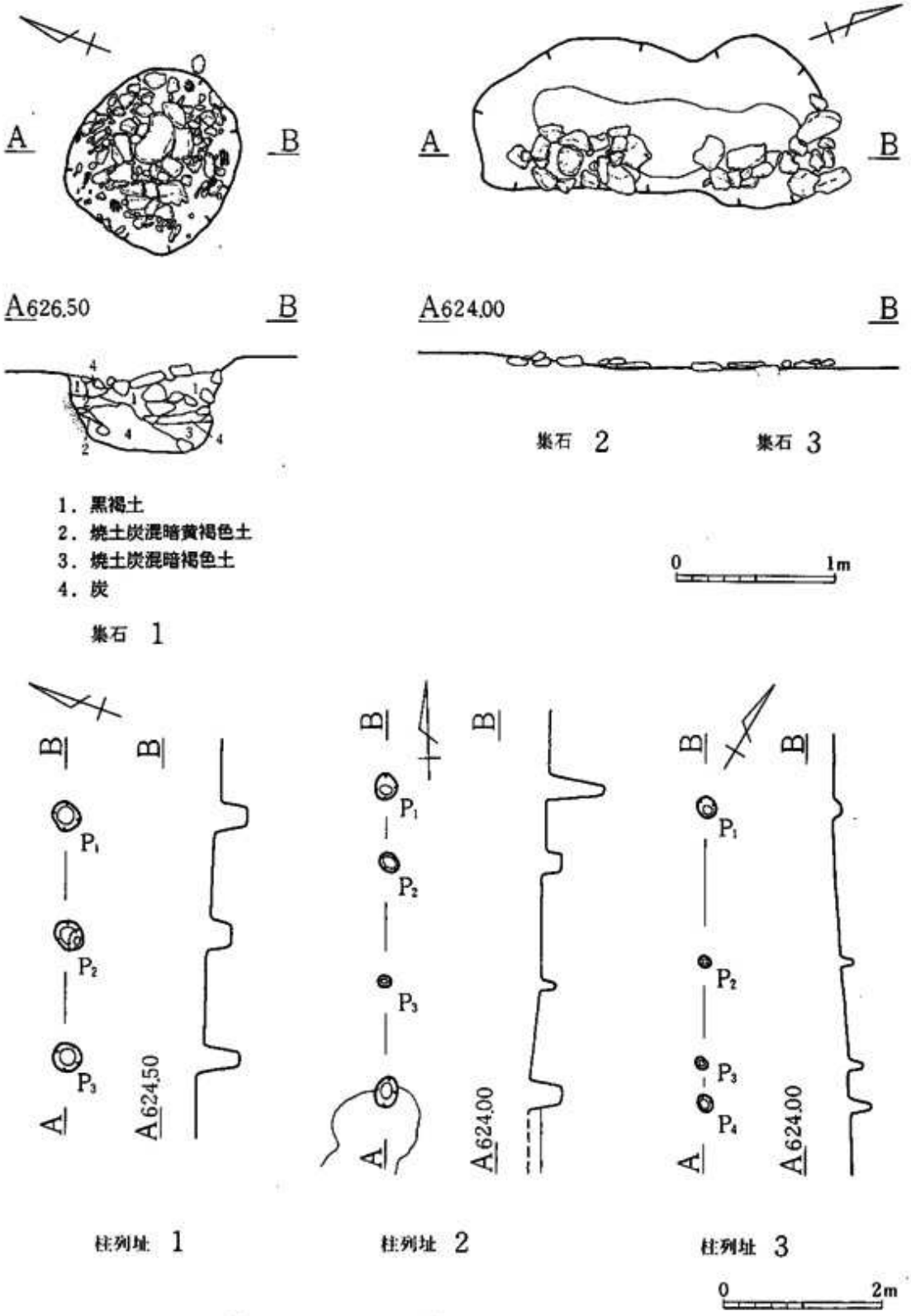
調査地点は、ＬＣ－83　19－45、同19－46内に位置する。

（2）遺構と遺物

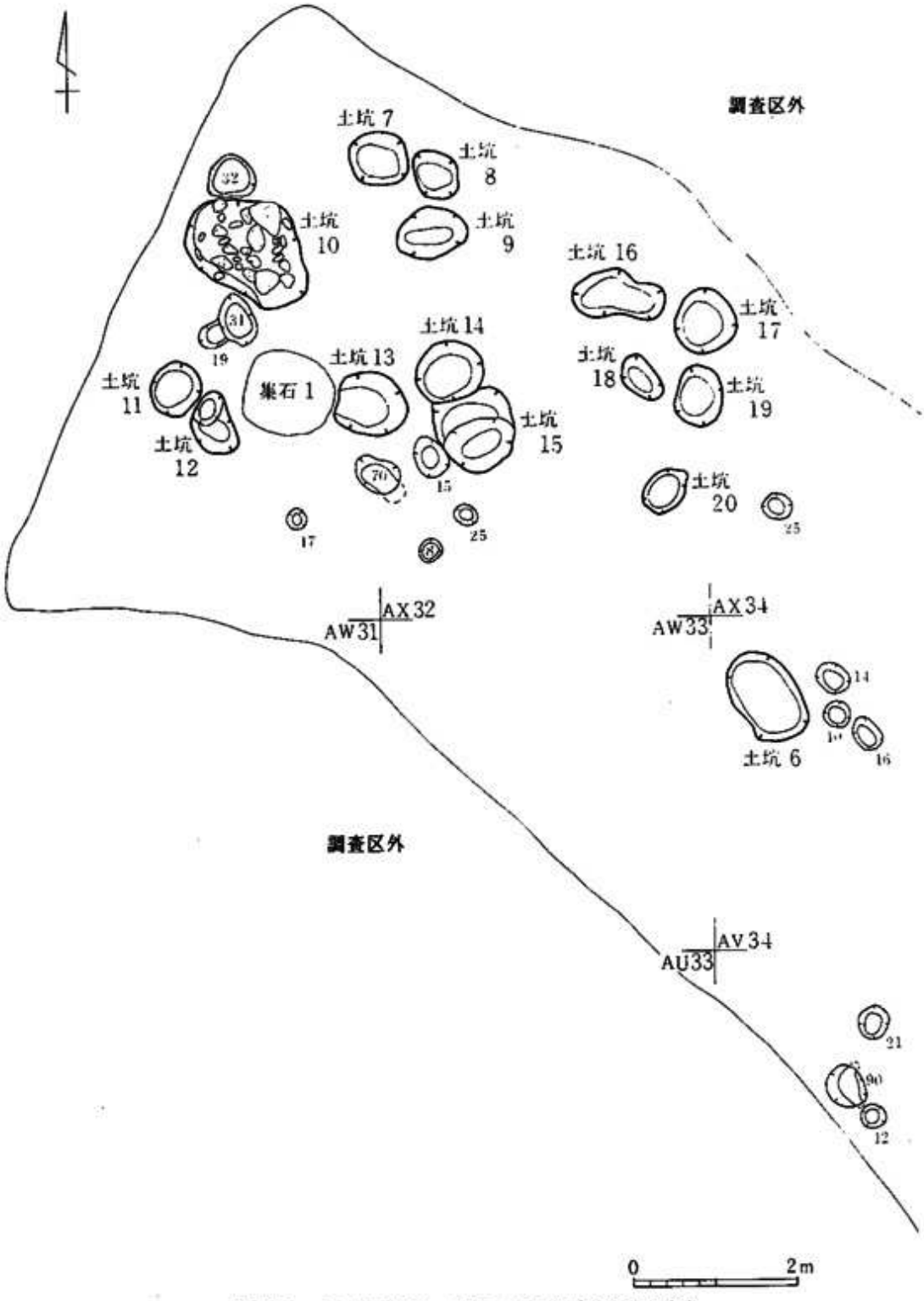
検出された遺構は、土坑25基および小柱穴群がある。遺物は、遺構外からの陶磁器片の出土が多い。試掘32トレンチ中央で確認された竪穴住居址と考えられる遺構は、本調査の結果住居址でないことが判明した。



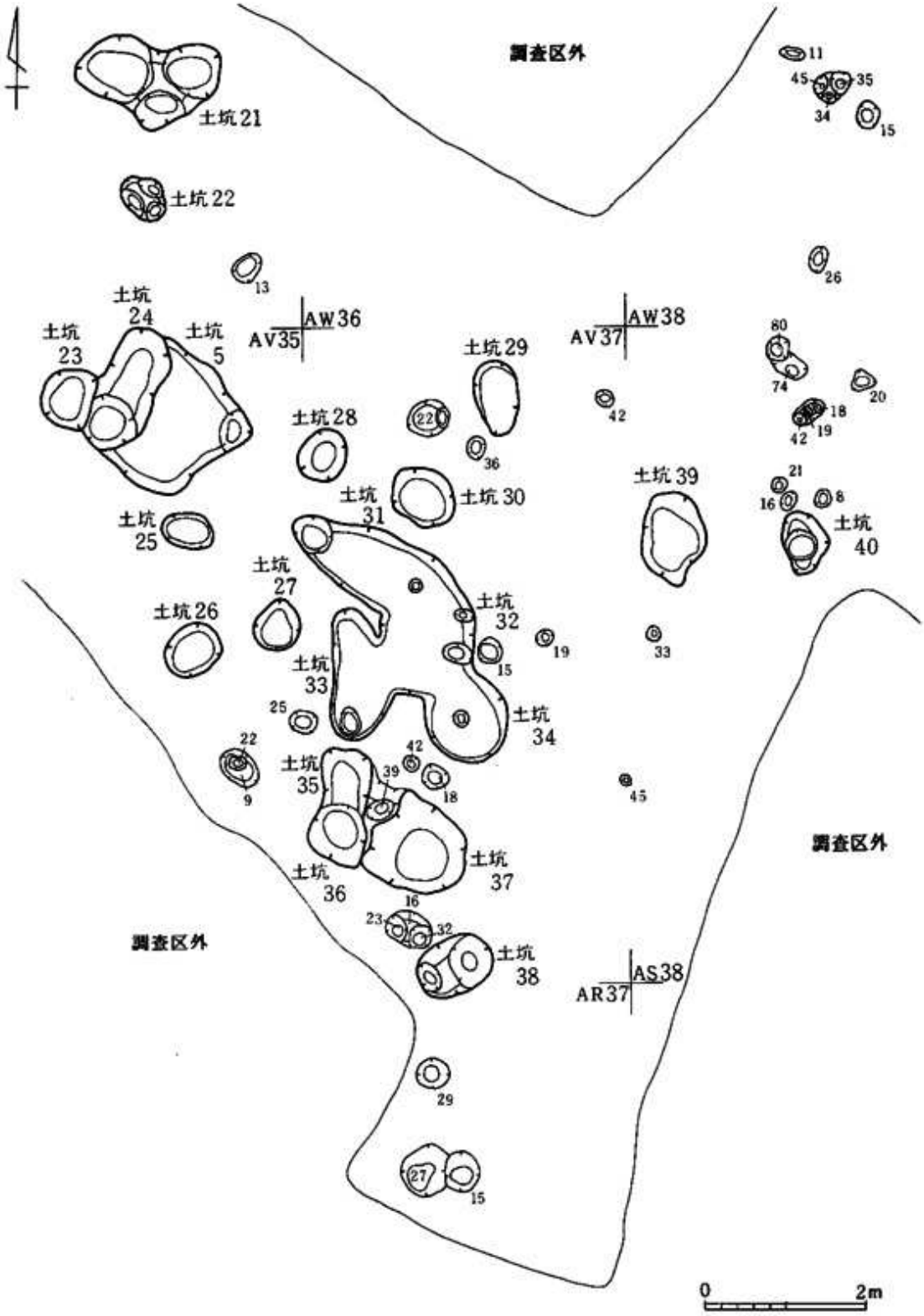
挿図4　基準メッシュ図　区画調査位置



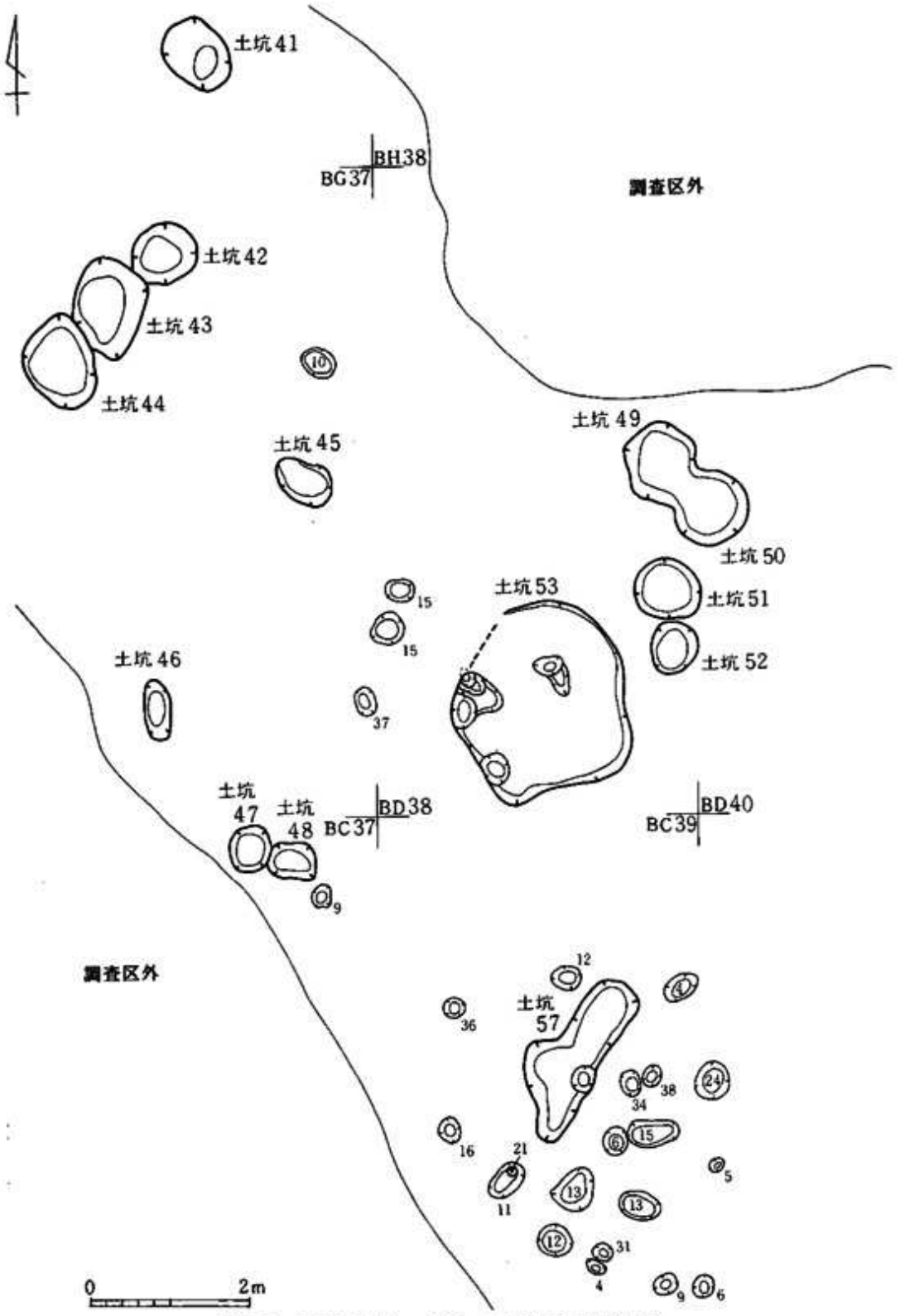
挿図5　ＦＪＴ3571　集石１～３，柱列址１～３



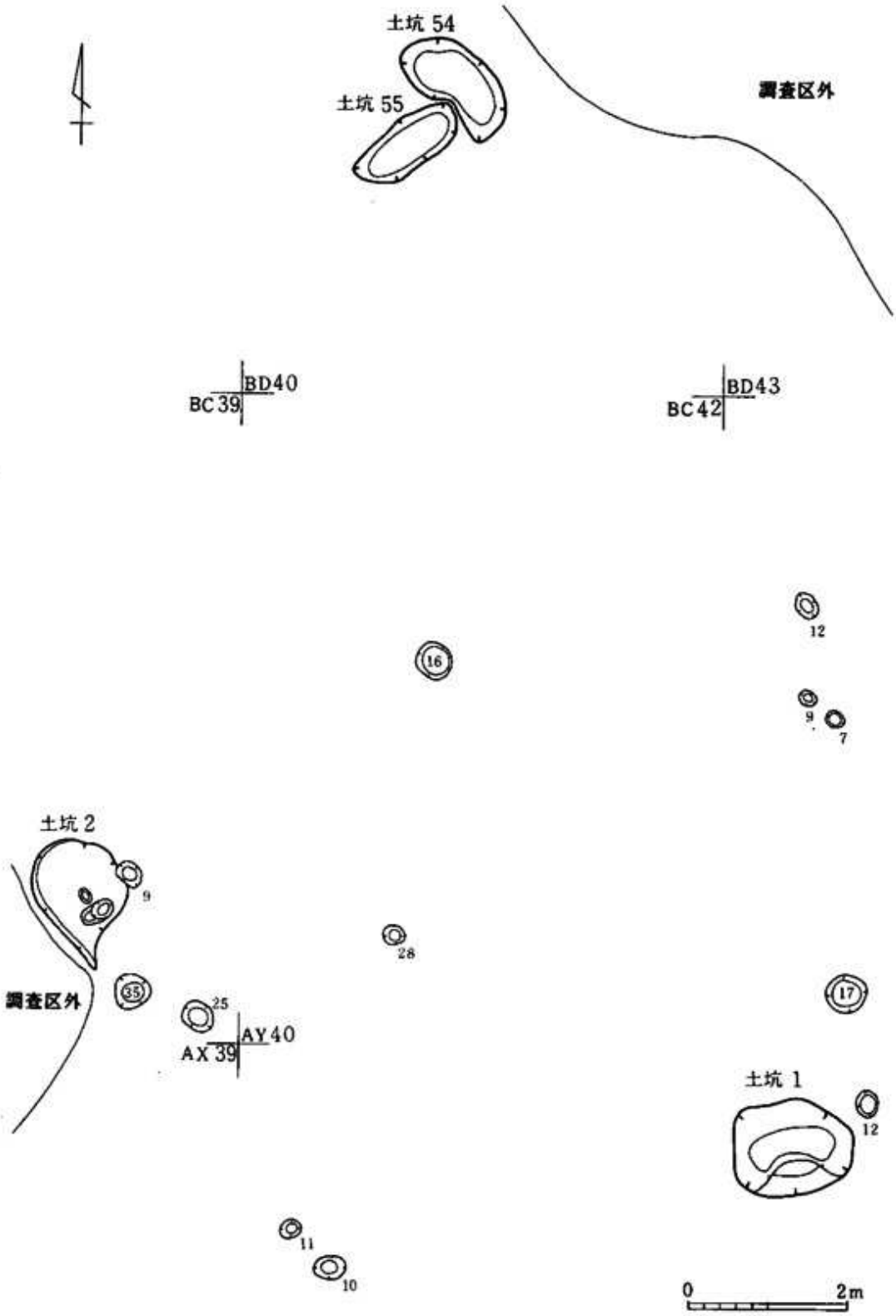
挿図6　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（1）



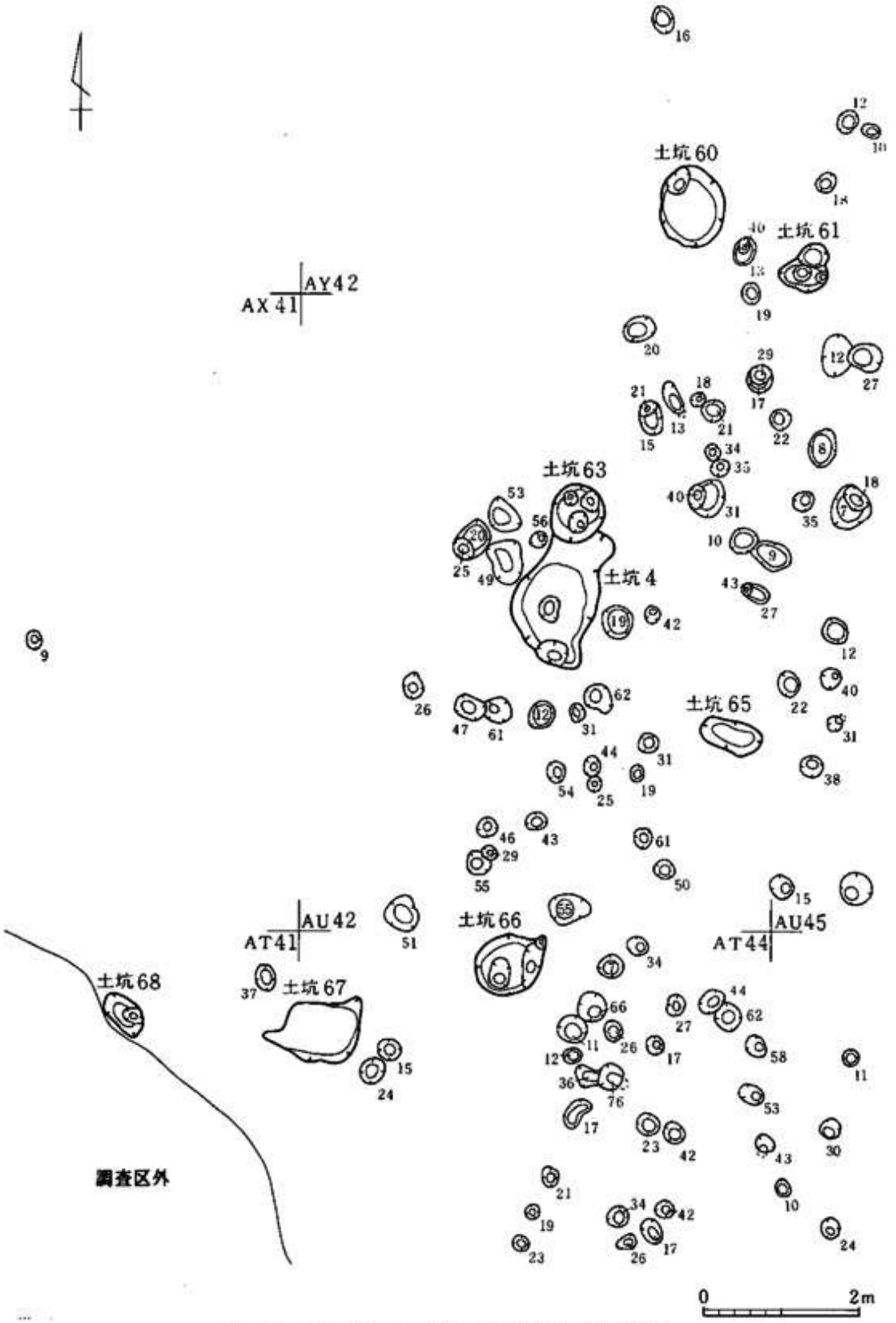
挿図7　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（2）



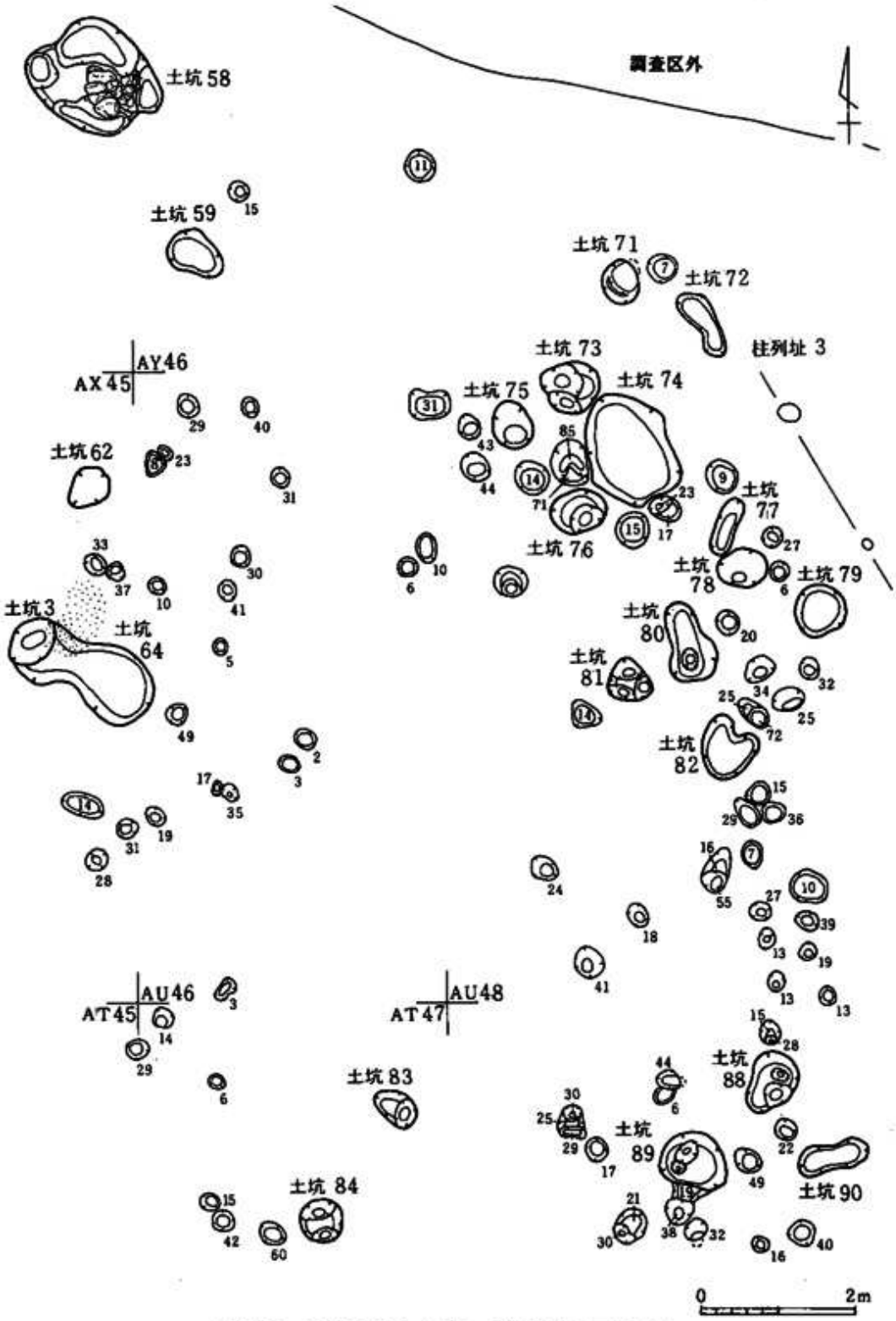
挿図8　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（3）



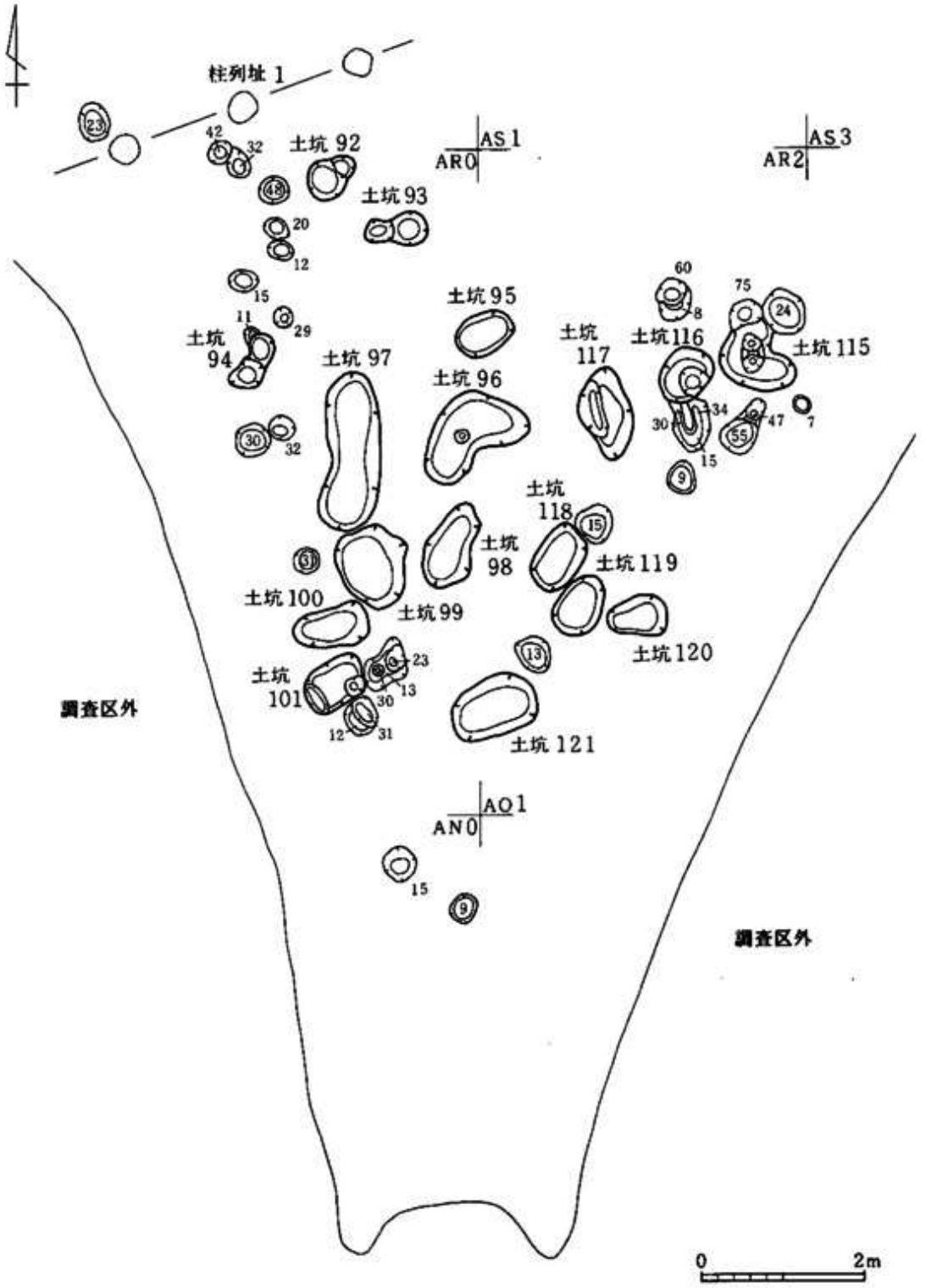
挿図9　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（4）



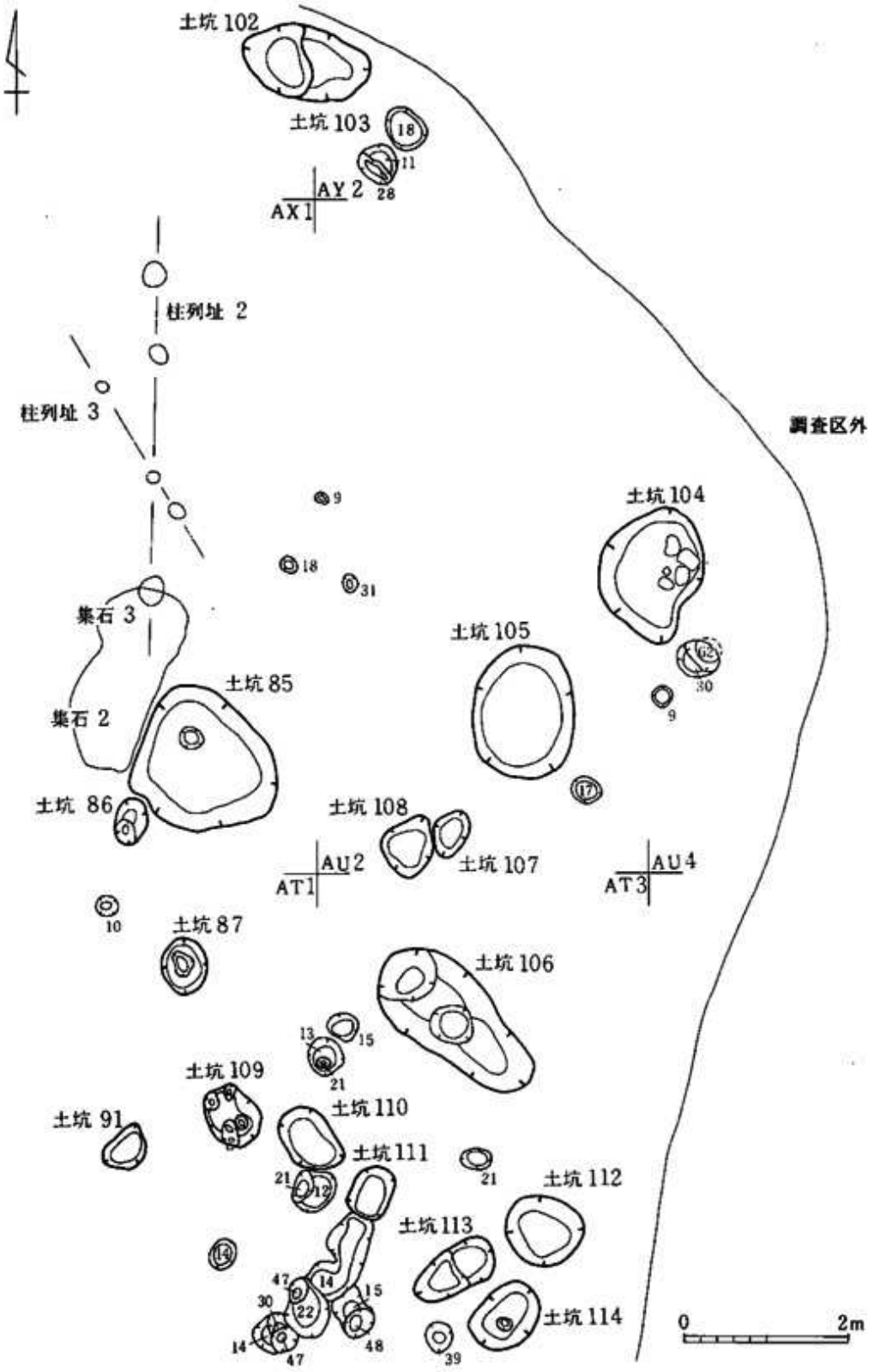
挿図10　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（5）



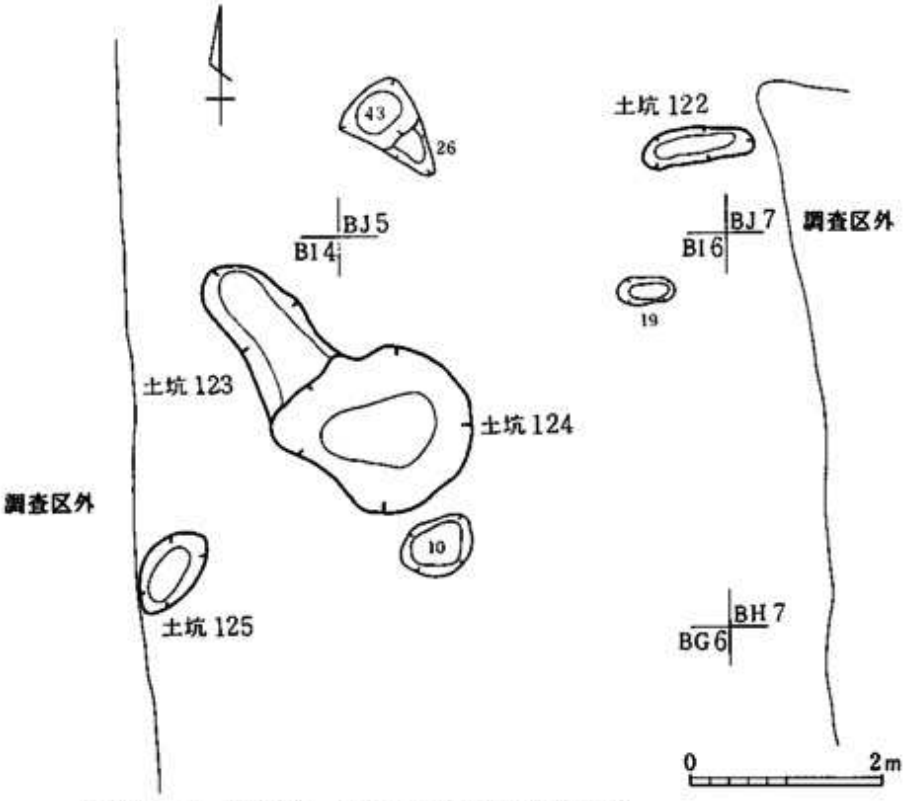
挿図11　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（6）



挿図12　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（7）



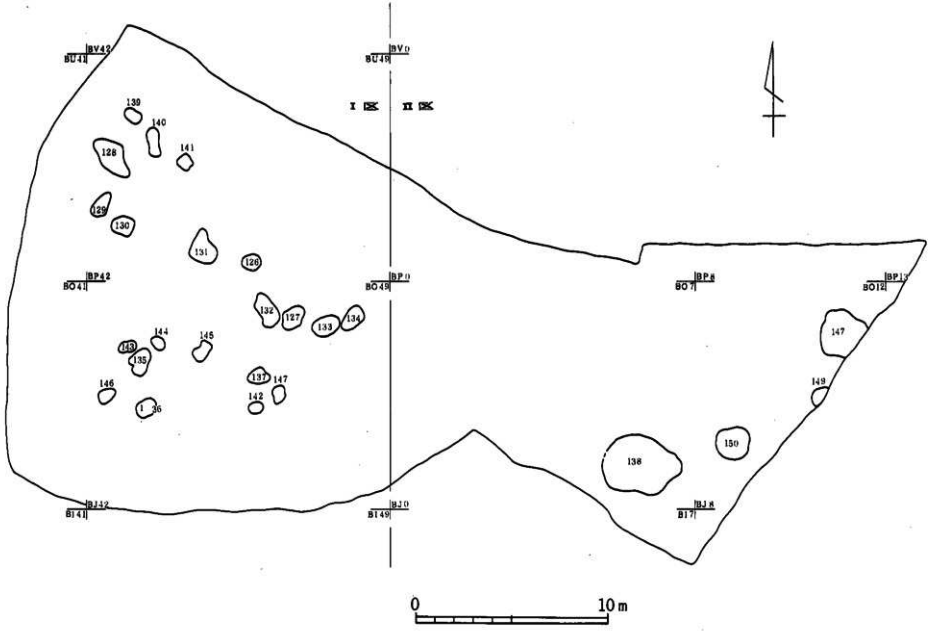
挿図13　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（8）



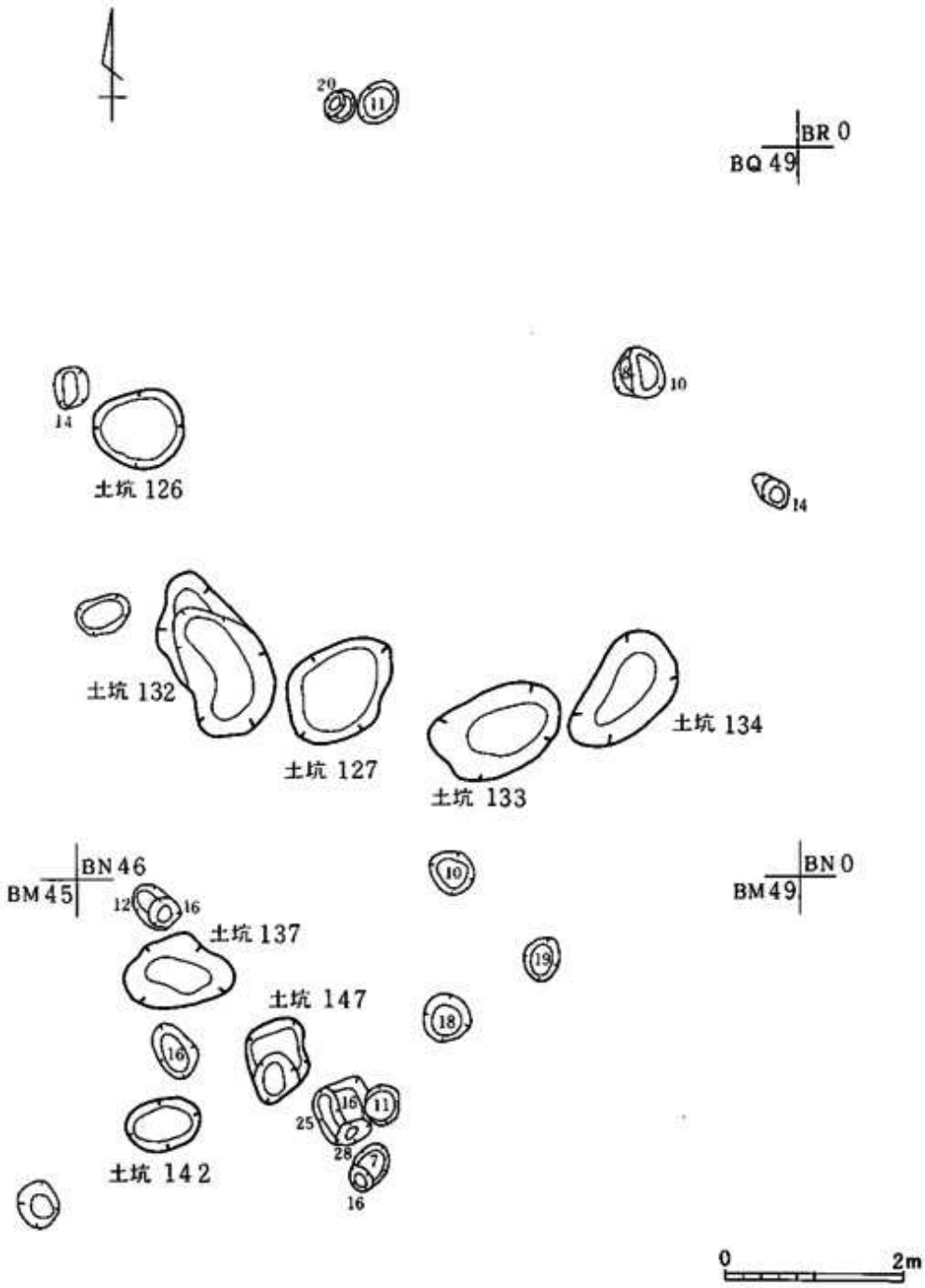
挿図14　ＦＪＴ3571　土坑・周辺柱穴平面図（9）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
集石1	挿図5	AY31	120／106／56	不整円形	炭・焼礫	縄文	－	集石炉
2	5	AV0	－／100／27	不整形	礫	－	集石3	
3	5	AV0	125／－／18	不整形	礫	－	集石2 柱2	
柱列址1	5	AS48他	337／35／51.28(45)40	－	漆	中世？	－	
2	5	AW0他	410／30／70.18.16.41	－	褐漆黒	中世？	集石3	
3	5	AW1他	385／25／11.16.27	－	褐 漆	中世？	－	
土坑1	9	AX43	148／116／62（3）	不整長方	黒 褐	縄後前	－	土器片3
2	9	AY39	160／116／21(29.34.40)	不整形	黒	中世？	－	土師器・陶器
3	11	AW45	68／48／65	楕円形	黄混黒褐	中世	土坑64	天目碗片1
4	10	AW43	180／108／31（60.47）	不整形	黄土混黒	中世？	土坑63	摺鉢片1
5	7	AV35	168／(128)／5（24）	不整長方	黄 褐	－	土坑23.24	
6	6	AW34	118／76／14	不整長方	暗 褐	近代	－	磁器片1
7	6	BA32	76／60／33	長方形	黄土混黒	－	－	
8	6	BA32	68／52／38	長方形	－	－	－	
9	6	BA32	88／64／20	楕円形	礫混黒褐	－	－	
10	6	BA31	164／112／	不整形	黄土混黒	－	－	
11	6	AY30	64／64／43	円 形	礫混黒褐	－	－	
12	6	AY30	72／48／21（36）	不整形	黒	－	－	
13	6	AY31	84／76／36	楕円形	黒 褐	－	－	
14	6	AY32	84／76／38	不整円形	黒 褐	－	－	
15	6	AY32	96／96／61.35	楕円形	黒 褐	－	－	
16	6	AY33	112／64／22	瓢箪形	黄混黒褐	－	－	
17	6	AY33	76／76／21	円 形	黄混黒褐	－	－	
18	6	AY33	60／36／41	楕円形	黄混黒褐	－	－	
19	6	AY33	76／56／21	長方形	黄混黒褐	－	－	
20	6	AX33	64／44／16	不整長方	黒 褐	－	－	
21	7	AX35	180／96／23.41.14	不整形	黒 褐	－	－	
22	7	AW35	60／48／15.8.12	不整形	黒 褐	－	－	
23	7	AV34	72／64／27	不整長方	黒 褐	－	土坑5.24	
24	7	AV34	160／76／63（84）	不整瓢箪	黒 褐	－	土坑5.23	
25	7	AV35	64／44／12	楕円形	黒 褐	－	－	
26	7	AV35	70／60／18	長方形	黒 褐	－	－	

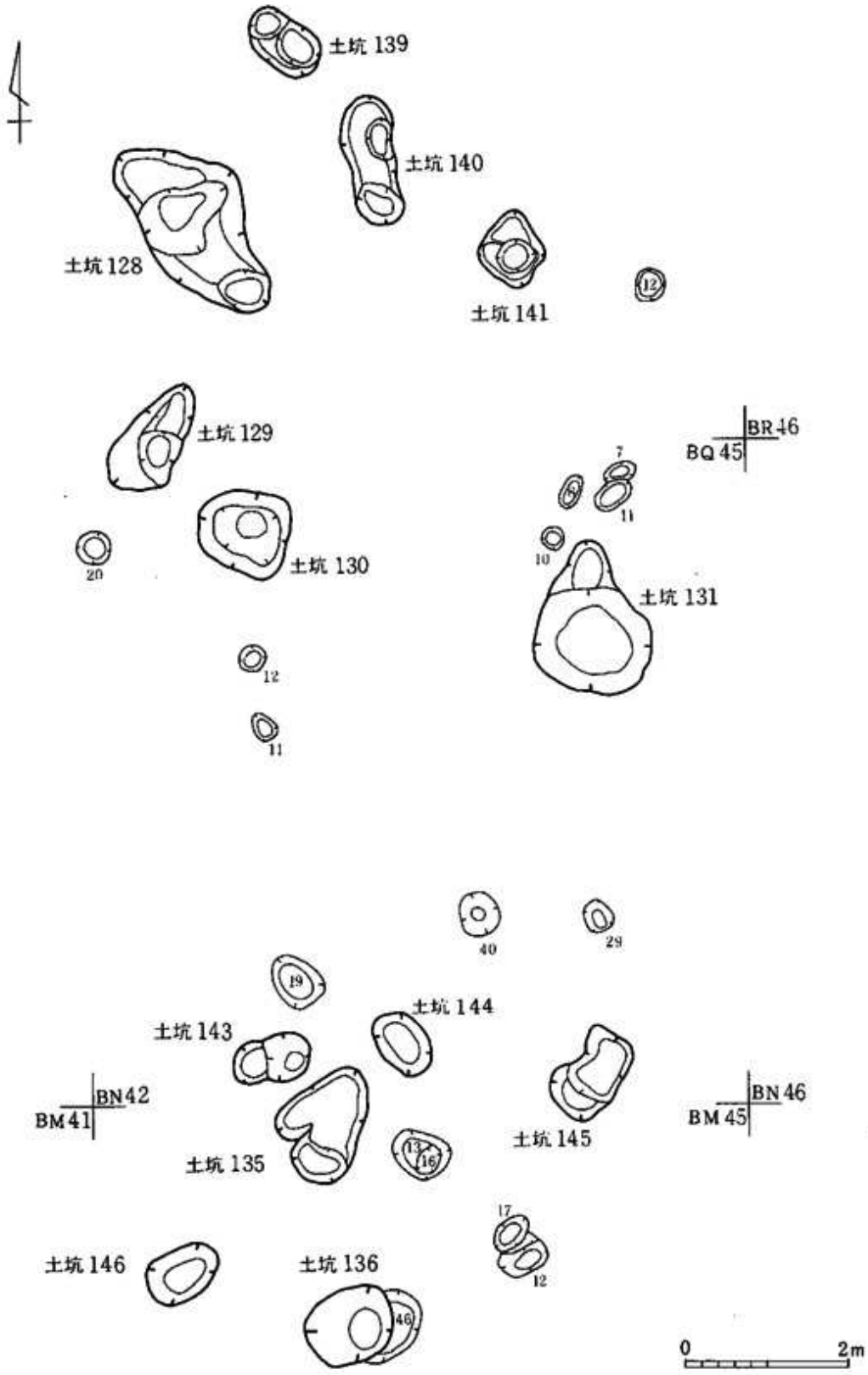
表1　遺構観察表（1）



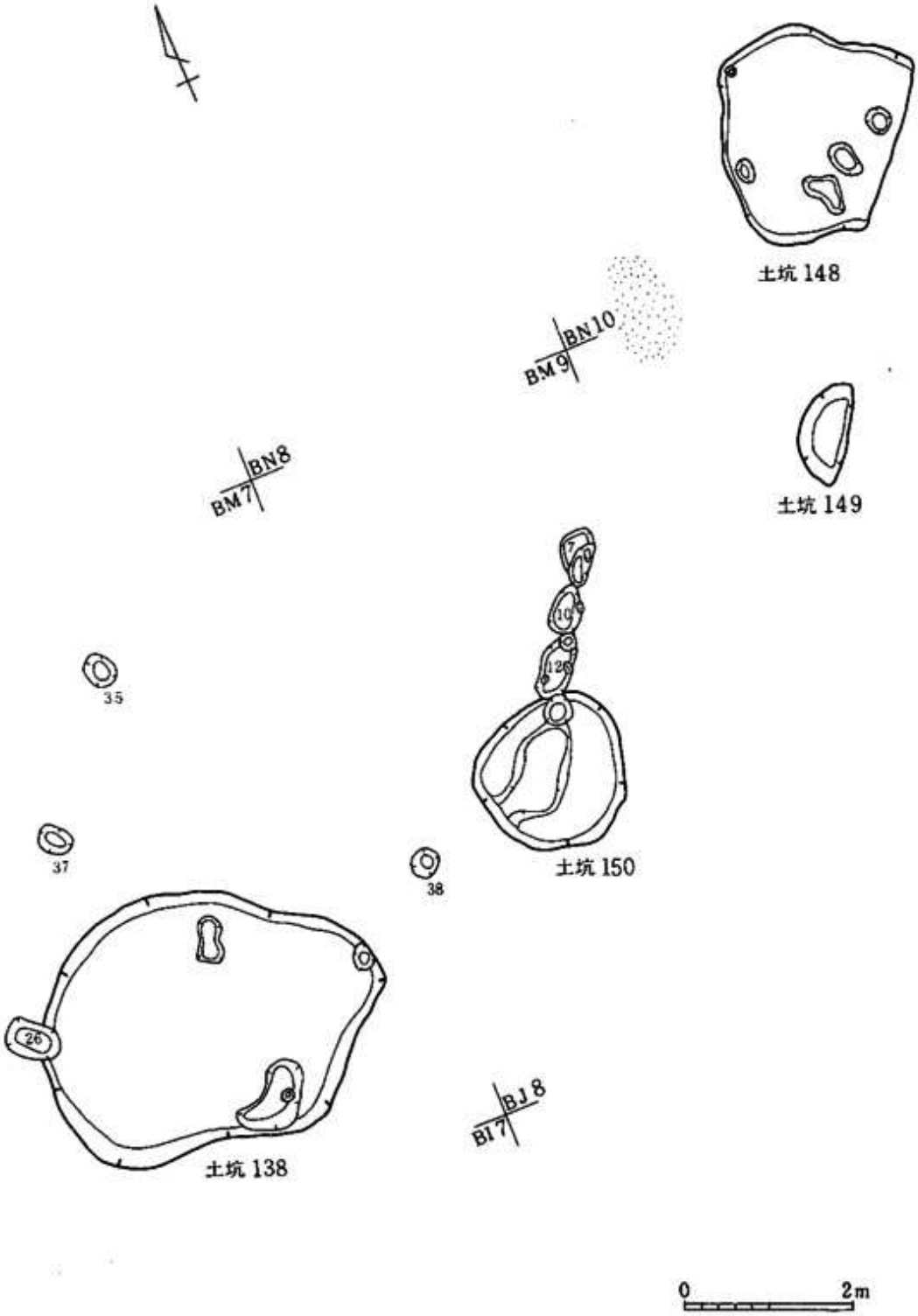
挿図15　ＦＪＴ3424　遺構全体図



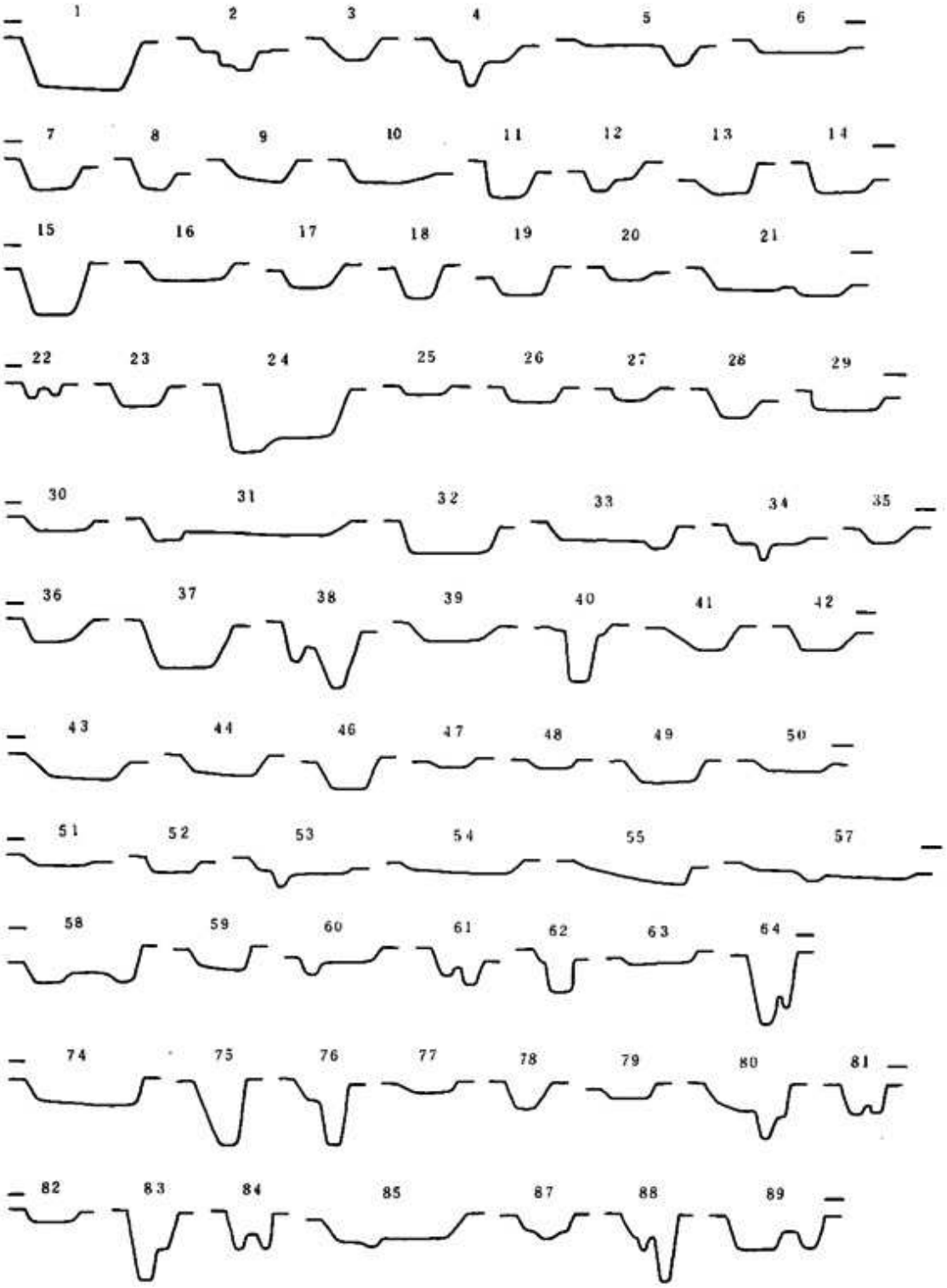
挿図16　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（1）



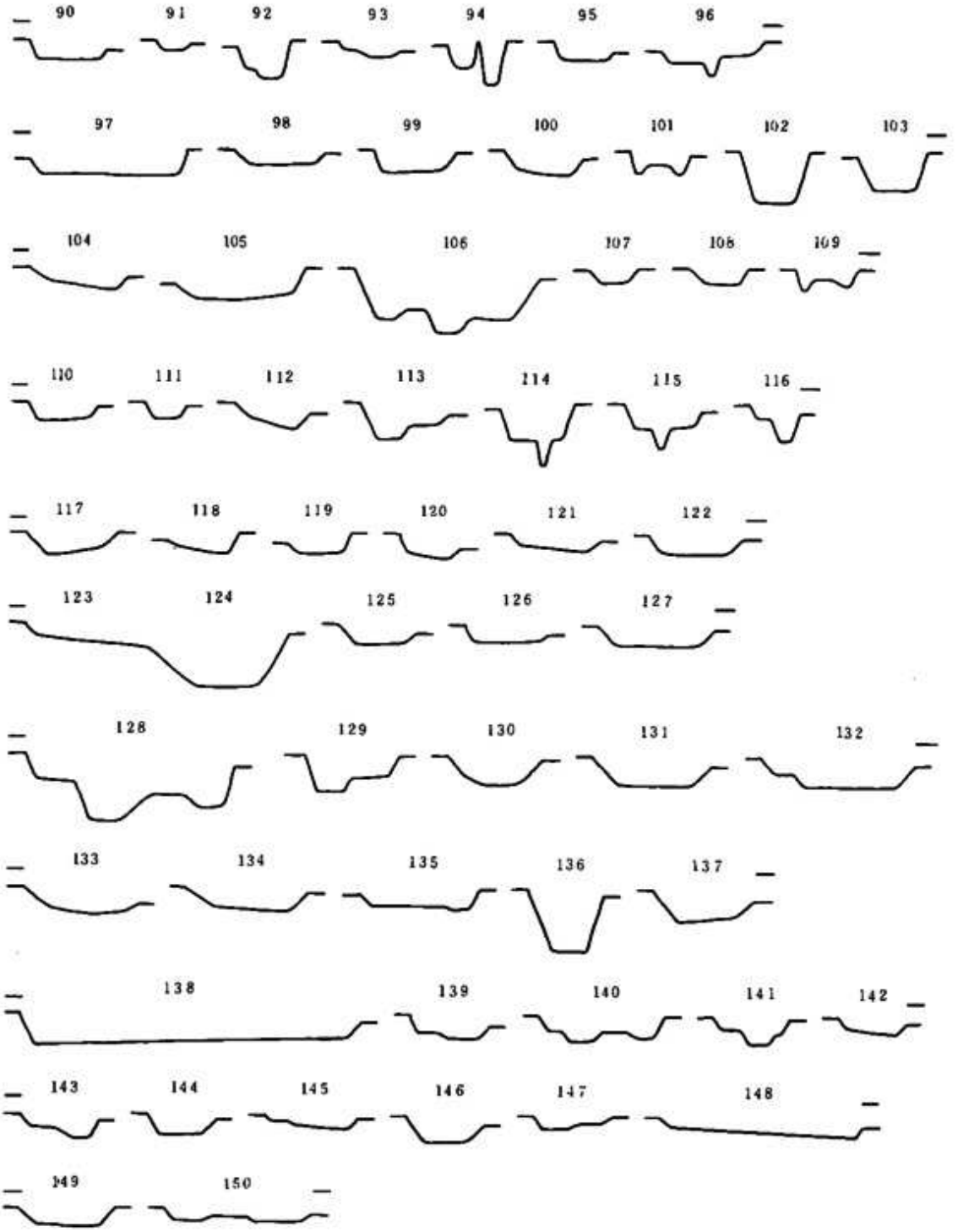
挿図17　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（2）



挿図18　ＦＪＴ3424　土坑・周辺柱穴平面図（3）



挿図19　ＦＪＴ3571・3424　土坑エレベーション図（1）



挿図20　ＦＪＴ3571・3424　土坑エレベーション図（2）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土　坑27	挿図7	AV35	64／ 60／ 14	不整形	黒　褐	－	－	
28	7	AV36	64／ 56／ 30	長方形	黒　褐	－	－	
29	7	AV37	90／ 56／ 8	不整楕円	漆	－	－	
30	7	AU36	76／ 68／ 12	不整長方	黄土混黒	－	－	
31	7	AU36	／ 96／ 23（40.27）	不整形	黒	－	土坑32他	
32	7	AU36	116／　／ 16（32）	不整形	黒	－	土坑31他	
33	7	AT36	158／(76)／ 17（26）	不整形	黒　褐	－	土坑32他	
34	7	AT36	／100／ 20（28）	不整形	黒　褐	－	土坑31他	
35	7	AT36	／ 60／ 20	不整長方	黒　褐	－	土坑36	
36	7	AS36	70／ 70／ 22	不整方形	黒　褐	－	土坑35	
37	7	AS36	120／100／ 58	不整形	黒	－	－	
38	7	AS36	96／ 68／ 31（50.32）	不整形	黒　褐	－	－	
39	7	AU38	112／ 80／ 16	不整形	黒	－	－	
40	7	AU39	76／ 56／ 11.90.4	不整形	黒	－	－	
41	8	BH36	94／ 68／ 30	長方形	－	－	－	
42	8	BG36	80／ 80／ 23	円　形	－	－	－	
43	8	BG36	108／ 88／ 29	長方形	－	－	－	
44	8	BF36	104／ 86／ 28	不整長方	－	－	－	
45	8	BE37	76／ 52／ 20	楕円形	暗　褐	－	－	
46	8	BD36	74／ 32／ 35	楕円形	漆	－	－	
47	8	BC37	52／ 54／ 14	不整方形	黒	－	－	
48	8	BC37	60／ 42／ 8	長方形	漆	－	－	
49	8	BF39	96／　／ 22	不整形	漆	－	土坑50	
50	8	BE40	94／　／ 11	不整形	黒	－	土坑49	
51	8	BE39	86／ 76／ 4	楕円形	黄混黒褐	－	－	
52	8	BE39	66／ 56／ 15	楕円形	黒	－	－	
53	8	BD39	256／232／ 25.15	不整形	黒　褐	－	－	
54	9	BH41	152／ 80／ 16	楕円形	黄混黒褐	－	－	
55	9	BH41	144／ 60／ 26	楕円形	黄混黒褐	－	－	
56								
57	8	BB39	216／ 92／ 12	不整楕円	暗　褐	－	－	
58	11	BA45	180／134／ 36	不整形	暗　褐	－	－	

表2　遺構観察表（2）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土　坑59	挿図11	ＡＹ46	76／ 52／ 27	不整楕円	黄混黒褐	－	－	
60	10	ＡＹ44	100／ 84／ 7（20）	楕円形	黄土混黒	－	－	
61	10	ＡＹ45	64／64／12（40.31.23）	不整形	黒	－	－	
62	11	ＡＹ46	60／ 48／ 5	円　形	焼土炭混	－	－	
63	10	ＡＷ43	72／68／18（43.43.60）	円　形	黄土混黒	－	土坑４	
64	11	ＡＷ45	(144)／ 88／ 11.15	瓢箪形	黄混黒褐	－	土坑３	
65	10	ＡＶ44	80／ 40／ 20	楕円形	漆　黒	－	－	
66	10	ＡＴ43	88／ 80／15（33.24.5）	不整形	黒　褐	－	－	
67	10	ＡＴ42	120／ 84／ 14	不整形	黒　褐	－	－	
68	10	ＡＴ40	64／ 36／　（12）	不整形	暗　褐	－	－	
69	14	ＡＱ43	76／ 52／ 38	不整形	黒	－	－	
70	14	ＡＰ44	68／ 68／ 37	方　形	黒	－	－	
71	11	ＡＹ49	56／ 44／ 42（16）	不整形	褐	－	－	
72	11	ＡＹ49	92／ 36／ 16	瓢箪形	褐	－	－	
73	11	ＡＸ48	76／ 64／ 84.67.17	不整形	褐	－	－	
74	11	ＡＸ49	148／108／ 23	不整長方		－	－	
75	11	ＡＸ48	60／ 52／ 81	楕円形	褐	－	－	
76	11	ＡＸ48	72／ 56／ 26（75）	不整長方	黒　褐	－	－	
77	11	ＡＸ49	76／ 28／ 19	楕円形	漆	－	－	
78	11	ＡＷ49	64／ 52／ 33	楕円形	褐	－	－	
79	11	ＡＷ０	64／ 64／ 22	円　形	漆	－	－	
80	11	ＡＷ49	100／ 60／ 35（70）	不整楕円	黒　褐	－	－	
81	11	ＡＷ49	60／56／26（35.35.46）	不整形	漆	－	－	
82	11	ＡＶ49	76／ 68／ 20	不整形	漆	－	－	
83	11	ＡＴ47	60／ 38／ 85（46）	不整形	－	－	－	
84	11	ＡＳ46	54／ 52／ 27（46.49）	不整形	－	－	－	
85	13	ＡＵ１	176／156／ 32（35）	不整長方	黄土混黒	－	－	
86	13	ＡＵ０	56／ 36／	不整形	黄土混黒	－	－	
87	13	ＡＴ１	68／ 54／ 22（32）	楕円形	黒　褐	－	－	
88	11	ＡＴ０	80／ 60／ 28（45.82）	不整形	漆	－	－	
89	11	ＡＳ49	88／ 68／ 40（76.62）	不整形	褐	－	－	
90	11	ＡＴ０	92／ 36／ 20.17	瓢箪形	褐	－	－	

表３　遺構観察表（３）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土　坑91	挿図13	ＡＳ０	60／ 42／ 10	不整形	褐	－	－	
92	12	ＡＲ０	60／ 48／ 47（35）	不整形	漆	－	－	
93	12	ＡＲ０	76／ 40／ 11	不整形	黒	－	－	
94	12	ＡＱ49	70／ 36／ 53.31	不整形	漆	－	－	
95	12	ＡＱ１	70／ 48／ 19	長方形	褐	－	－	
96	12	ＡＱ０	140／ 64／ 27（35）	不整形	褐	－	－	
97	12	ＡＱ０	190／ 68／ 30.27	瓢箪形	褐	－	－	
98	12	ＡＰ０	110／ 60／ 16	不整形	褐	－	－	
99	12	ＡＰ０	100／ 88／ 28	不整楕円	褐	－	－	
100	12	ＡＰ０	92／ 52／ 20	楕円形	褐	－	－	
101	12	ＡＯ０	76／ 54／ 17（27.28）	不整長方	褐	－	－	
102	13	ＡＹ１	90／ 76／ 64	不整形	黒	－	土坑103	
103	13	ＡＹ２	(88)／ 84／ 47	不整形	黒	－	土坑102	
104	13	ＡＶ４	160／124／ 29	不整形	礫混黒	－	－	
105	13	ＡＵ３	156／124／ 20	楕円形	黄土混黒	－	－	
106	13	ＡＴ２	226／108／60.69(82.74)	不整形	黒　褐	－	－	
107	13	ＡＵ２	60／ 40／ 19	楕円形	漆	－	－	
108	13	ＡＵ２	74／ 64／ 19	不整形	褐	－	－	
109	13	ＡＳ１	76／ 64／ 10～34	不整形	褐	－	－	
110	13	ＡＳ１	84／ 58／ 23	長方形	黒	－	－	
111	13	ＡＳ２	64／ 48／ 23	長方形	褐	－	－	
112	13	ＡＲ３	92／ 84／ 39	楕円形	褐	－	－	
113	13	ＡＲ２	108／ 52／ 24.6	不整楕円	黒	－	－	
114	13	ＡＲ３	88／ 68／ 46（76）	長方形	褐	－	－	
115	12	ＡＱ２	96／60／28.11(55.51)	不整形	黒	－	－	
116	12	ＡＱ２	68／ 56／ 18（34）	不整形	褐	－	－	
117	12	ＡＱ１	112／ 68／ 26（43）	不整形	褐	－	－	
118	12	ＡＰ１	80／ 54／ 25	長方形	褐	－	－	
119	12	ＡＰ１	76／ 56／ 22	楕円形	褐	－	－	
120	12	ＡＰ１	72／ 50／ 22	不整形	褐	－	－	
121	12	ＡＯ１	108／ 68／ 18	長方形	褐	－	－	
122	14	ＢＪ６	116／ 36／ 15	楕円形	黒	－	－	

表４　遺構観察表（４）

遺構名	図版No.	検出位置	規模（長／短／深cm）	形態	覆土	時代	重複遺構	備考
土坑123	挿図14	ＢＩ４	(152)／84／ 12	不整形	漆	－	－	
124	14	ＢＩ５	206／168／ 69	不整形	漆	－	－	
125	14	ＢＨ４	96／ 56／ 21	楕円形	黒	－	－	
126	16	ＢＰ46	100／ 88／ 14	楕円形	褐	－	－	
127	16	ＢＯ47	140／108／ 31	不整形	黒	－	－	
128	17	ＢＳ42	252／140／33.40(87.52)	不整形	黒	－	－	
129	17	ＢＲ42	148／ 72／ 38 (57)	不整形	褐	－	－	
130	17	ＢＱ42	116／100／ 32	不整形	黒	－	－	
131	17	ＢＰ45	188／128／ 28.20	不整形	黒 褐	－	－	
132	16	ＢＯ46	188／100／ 29 (13)	不整形	黒 褐	－	－	
133	16	ＢＮ48	144／ 94／ 13	楕円形	黒	－	－	
134	16	ＢＮ49	148／ 88／ 26	楕円形	黒	－	－	
135	17	ＢＭ43	144／112／ 19.19	不整形	暗 褐	－	－	
136	17	ＢＬ43	108／ 92／ 77	不整形	黒	－	－	
137	16	ＢＭ46	120／ 88／ 31	不整楕円	黒	－	－	
138	18	ＢＫ6	416／340／33(15.15.34)	不整形	漆 黒	－	－	
139	17	ＢＴ43	96／ 60／ 16 (23.23)	不整形	褐	－	－	
140	17	ＢＳ43	156／ 62／ 20 (27.30)	不整形	黒 褐	－	－	
141	17	ＢＳ44	92／ 80／ 16.14 (29)	不整形	黒	－	－	
142	16	ＢＬ46	80／ 56／ 15	楕円形	黒 褐	－	－	
143	17	ＢＮ43	92／ 52／ 25.14	不整形	黒	－	－	
144	17	ＢＮ43	80／ 56／ 18	長方形	褐	－	－	
145	17	ＢＮ45	112／ 76／ 11.6	不整形	黒	－	－	
146	17	ＢＬ42	92／ 64／ 24	楕円形	黒 褐	－	－	
147	16	ＢＭ47	80／ 64／ 10 (15)	不整形	黒 褐	－	－	
148	18	ＢＮ11	246／222／ 13(4.7.6.5)	不整形	黄土混灰	－	－	
149	18	ＢＬ11	120／ 56／ 18	半円形	黄土混灰	－	－	
150	18	ＢＫ９	188／180／ 16 (11.16)	不整形	炭混灰黒	－	－	

表５　遺構観察表（５）

Ⅳ. ま　と　め

本遺跡は笠松山系の南東麓の扇状地に位置するが、複雑な微地形を呈している。富士塚遺跡（Ⅱ）北側から富士塚遺跡土坑41～55付近に向かって砂礫層が分布し、これより北西側は広く同様な状況を呈することがP・R・S・U～X・Zトレンチ試掘調査結果から分かっている。また、富士塚遺跡（Ⅱ）の南側は38～43トレンチで把握されたとおり、低湿地となっている。新川上流部にあたる本遺跡周辺は、複雑に入り組んだ小井水・湧水とそれらに挟まれた島状の微高地からなると考えられる。

富士塚遺跡［平成４年度調査分］・富士塚遺跡（Ⅱ）［平成５年度調査分］では、縄文時代および中・近世を主とする遺構・遺物が調査された。富士塚遺跡では、縄文時代後期前葉の土坑１と詳細時期不明ながら縄文土器小片が出土した集石１があり、また、多数の土坑が調査されている。土坑の一部には中・近世の遺物が伴なうものもあるが、大部分は遺物出土がなく、埋土黒褐色土を呈するもの等が縄文時代のものと考えられる。集石１は、上部に約10～20cmの被熱破砕礫があり、礫下に多量の炭が検出された。掘り込みの壁部分が著しく焼けており、形態等からいわゆる集石炉である。集石や土坑の分布状況から、集落の周縁部分に相当すると考えられ、尾根の北側斜面に位置することから、集落の中心は西側の富士塚遺跡（Ⅱ）調査地に展開すると考えられた。しかし、富士塚遺跡（Ⅱ）も、富士塚遺跡と同様、散漫に土坑が分布しており、集落の周縁的な状況を示している。上述の周辺の微地形からすると、富士塚遺跡（Ⅱ）の東側に集落の中心があると考えられる。周辺の遺跡についてみると、三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡・富士塚遺跡・鳥屋平遺跡が南北に並んでおり、扇状地の扇端部に位置することがわかる。三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡で縄文時代中期後葉～後期前葉の集落、鳥屋平遺跡調査地点西側畑から後期初頭の遺物出土をみることは、この時期の集落立地を考える上で注目されよう。

弥生時代の遺構・遺物は確認されていないが、後期には三尋石遺跡（Ⅱ）・富の平遺跡で住居址がそれぞれ２棟調査されており、さらに本遺跡より高所の細田北遺跡・北方大原遺跡でも調査例がある。三尋石遺跡や富の平遺跡と同様、隣接して低湿地が広がることから、こうした部分を生産基盤のひとつとした小規模な集落の展開が考えられる。

中・近世は、多数の小柱穴群が分布することから、掘立柱建物址を主とする集落の展開があったと考えられ、これに一部の土坑が伴なうと考えられる。柱列が把握された箇所以外は小柱穴の分布は不規則で、住居構造等は把握できない。天目茶碗片が出土した土坑３の上部には焼土がのっており、小柱穴群に焼土が伴なった可能性もあろう。富士塚遺跡（Ⅱ）でも広範囲に遺物の出土をみており、散在的な集落の姿があったと考えられる。

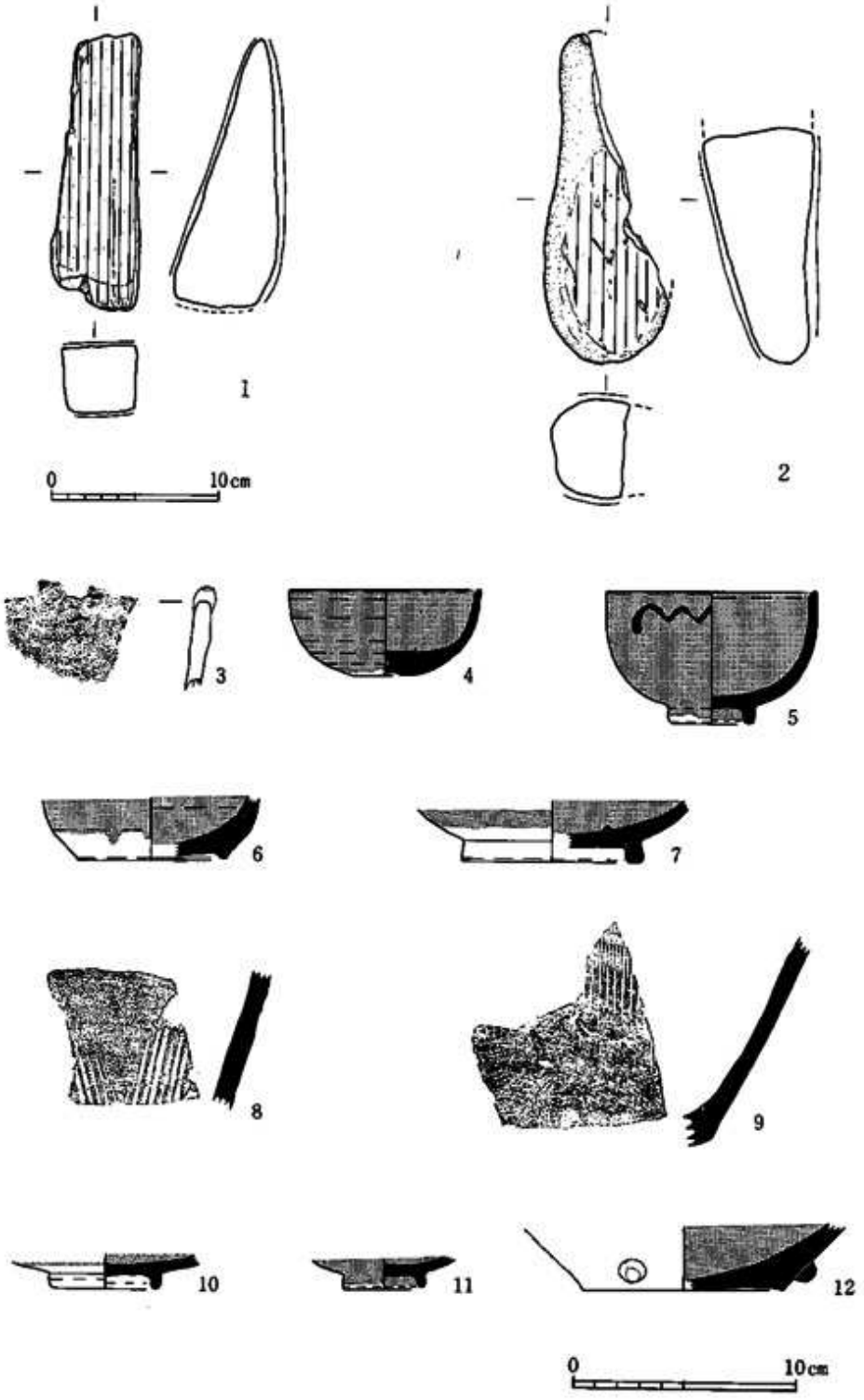
断片的な遺構・遺物から推測に推測を重ねたが、今後とも地道に文化財保護に取り組むことこそ、本発掘調査結果を正しく位置づけることになろう。

《引用・参考文献》

飯田市教育委員会　1977　『伊賀良中島平』
飯田市教育委員会　1978　『伊賀良宮ノ先』
飯田市教育委員会　1980　『猿小場遺跡』
飯田市教育委員会　1983　『酒屋前遺跡』
飯田市教育委員会　1983　『鳥屋平』
飯田市教育委員会　1987　『飯田垣外・火振原・梅ケ久保遺跡』
飯田市教育委員会　1987　『殿原遺跡』
飯田市教育委員会　1988　『田井座遺跡』
飯田市教育委員会　1988　『小垣外・八幡面遺跡』
飯田市教育委員会　1989　『下原遺跡』
飯田市教育委員会　1989　『高野遺跡』
飯田市教育委員会　1990　『細田北遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『田井座遺跡・一色遺跡・名古熊下遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『田井座遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『大原遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『公文所前遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『直刀原遺跡』
飯田市教育委員会　1991　『樋明古墳』
飯田市教育委員会　1992　『殿原遺跡』
飯田市教育委員会　1994　『中村中平遺跡』
下伊那史編纂委員会　1955　『下伊那史　第２巻』
下伊那史編纂委員会　1955　『下伊那史　第３巻』
下伊那史編纂委員会　1967　『下伊那史　第５巻』
下伊那史編纂委員会　1991　『下伊那史　第１巻』
下伊那教育会編　1985　『親と子の下伊那史』
長野県教育委員会　1972　『中央道調査報告　－飯田地区その２－』
長野県教育委員会　1973　『中央道調査報告　－飯田地区－　昭和45年度』
長野県史刊行会　1983　『長野県史　考古資料編　主要遺跡（中・南信）』
長野県史刊行会　1986　『長野県史　通史編　第２巻　中世１』
長野県史刊行会　1987　『長野県史　通史編　第３巻　中世２』
長野県史刊行会　1988　『長野県史　考古資料編　遺構・遺物』
長野県史刊行会　1989　『長野県史　通史編　第１巻　原始・古代』

筒井泰蔵　1973　『伊賀良村史』
伴　信夫・宮沢恒之　1967　「長野県飯田市伊賀良西ノ原遺跡調査報告」『信濃』19巻12号
松島　透　1957　「長野県立野遺跡の撚型文土器」『石器時代』4

図　　版



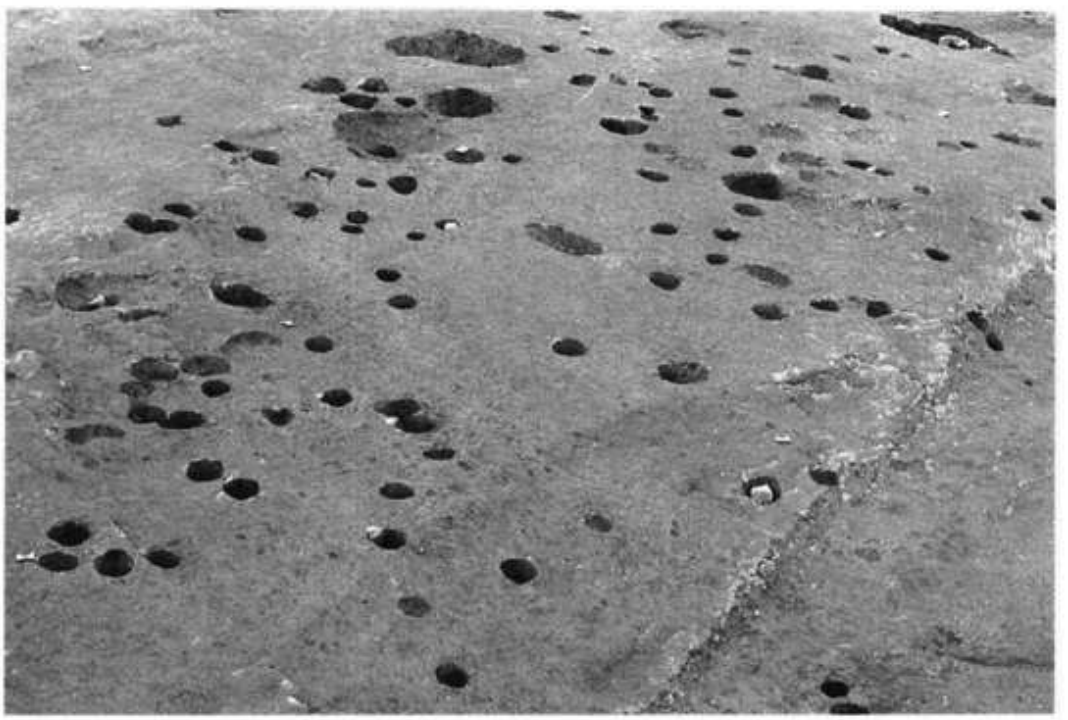
第1図　ＦＪＴ3571　土坑1　小柱穴　遺構外出土遺物　ＦＪＴ3424　遺構外出土遺物
（ＦＪＴ3571　3　土坑1，1小柱穴，2・4～9　遺構外
ＦＪＴ3424　10～12　遺構外）

写　真　図　版

図 版 1

富士塚遺跡全景

遺構分布状況



同　　上

図 版 3

遺構分布状況

集 石 1

集 石 2・3

試掘調査風景

図 版 5

重機作業風景

発掘作業風景

図 版 6

発掘作業風景

同　　上

同　　上

図 版 7

委託測量調査

富士塚遺跡（Ⅱ）全景

同　　上

図 版 9

遺構分布状況

同　　上

試掘調査風景

重機作業風景

図 版 11

重機作業風景

同　　上

発掘作業風景

同　　上

報告書抄録

ふりがな	ふじづかいせき・ふじづかいせき
書名	富士塚遺跡・富士塚遺跡（Ⅱ）
副書名	土地改良総合整備事業（大瀬木東地区） に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬場保之
編集機関	長野県飯田市教育委員会
所在地	〒395長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265－53－4545
発行年月日	西暦1996年3月　日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふじづか 富士塚	いいだしおおせぎ 飯田市大瀬木 3571他	2053		35° 29′ 27″	137° 47′ 00″	平成4年 5月26日 平成4年 6月16日	1,135㎡	圃場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富士塚	集落址	縄文時代 後期 中・近世	集石　3基 柱列址　3基 土坑　124基	縄文時代 土器 石器	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ふじづか 富士塚Ⅱ	いいだしおおせぎ 飯田市大瀬木 3424他	2053		35° 29′ 24″	137° 46′ 55″	平成5年 8月17日～ 平成5年 9月2日	870㎡	圃場整備

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富士塚Ⅱ	集落址	中世以降	土坑　25基	中世・近世 陶器 磁器	

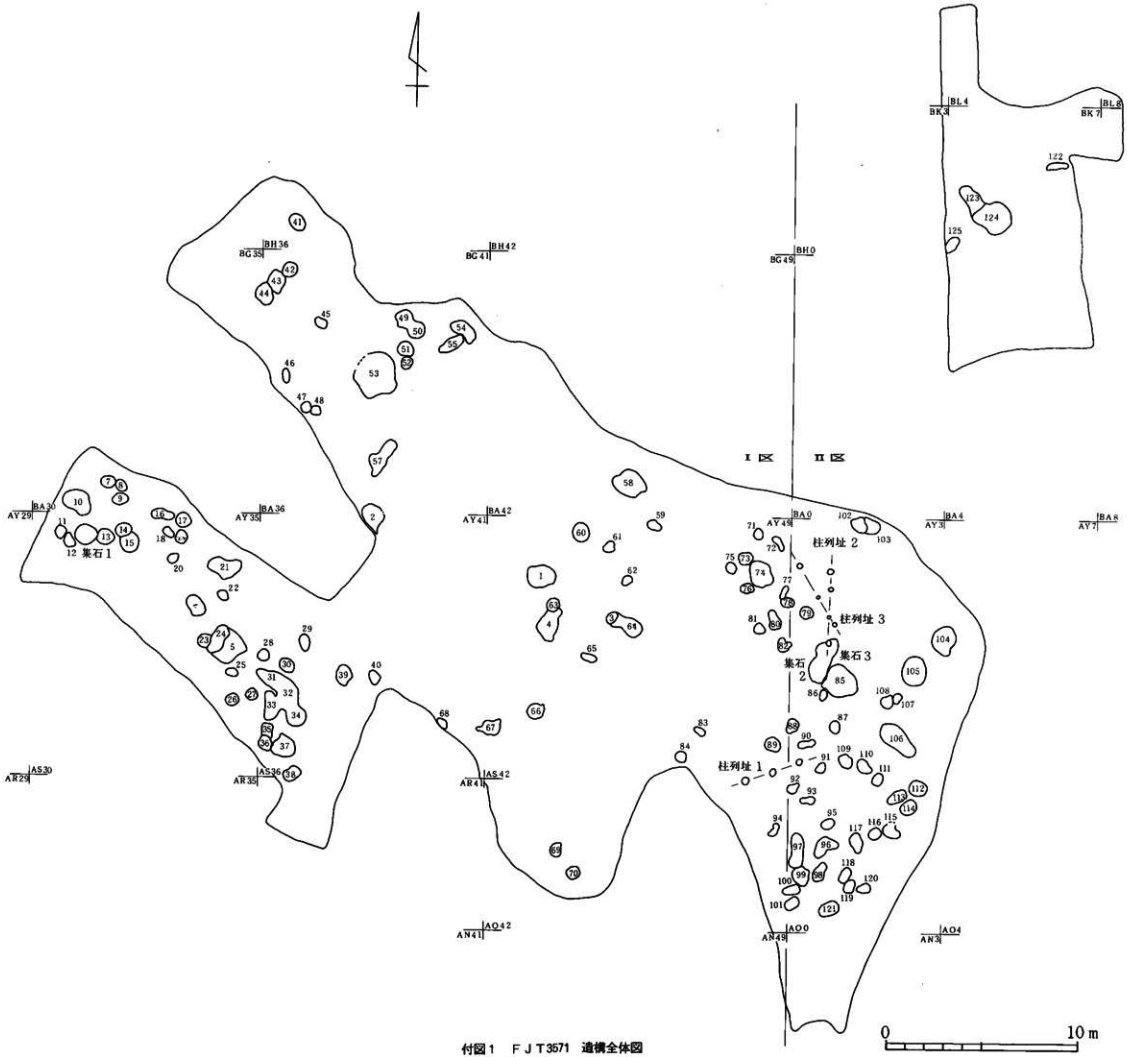
富士塚遺跡

土地改良総合整備事業に先立つ
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

1996年3月　発行

編集・発行　長野県飯田市上郷飯沼3145
長野県飯田市教育委員会

印　　刷　龍共印刷株式会社



付図 1　ＦＪＴ3571　遺構全体図